

十字路で立ち話抄二〇〇三年一月～二〇〇四年十二月

夏に忘れぬ立ち姿

吉田惠吉

目次

老いの転機はどこから……………	1
老若は身近な楽しみ方から……………	3
お後は知らない曲がり角……………	5
脆くも踏ん張る……………	7
幻想の図書館……………	9
のんびりやろうぜ……………	11
匂い立つ日々……………	13
崩した体を掌のように返す……………	15
素晴らしい立ち上がり……………	17
チョット寂しげなニュース……………	19
自前の脚で立って歩く……………	21

知的アイデアは誰のモノ……………	23
サラサラと三月に……………	25
明暗もおぼろげな日々……………	27
引退後の人生はどうか?……………	29
春先の間奏曲……………	31
春を食して……………	33
無題……………	35
春休みの息抜きに……………	37
軒先の向こうで狂言回し?……………	39
地に棹させば霊が出る?……………	41
早起き鳥の目で見ると……………	43
風まかせの春の宵に……………	45
元気で居てくれる素晴らしき……………	47

春雨のアラカルト：：：49

ふらつと出歩く五月に：：：51

床下から天井裏へ吹き抜けて：：：53

気も変わる空模様：：：55

問答無用な週に：：：57

なんだか中休み気分：：：59

つまらなさの中味は：：：61

立ったり座ったり：：：63

緑の回転木馬：：：65

風の便りに：：：67

若鮎の響き：：：69

時の日に響いたもの：：：71

曇り空の頃に……………	73
節穴の眺め……………	74
古い映画を見続けて……………	76
＊ ^ハ な日もある……………	78
逃げ場はどこに……………	80
夏に向かう鳥肌……………	82
この夏空の塩梅は……………	84
やらせじゃないよね……………	86
この夏の読み物に……………	88
夏こそ快適に……………	90
読書の合間に掲示板……………	92
まるで忍者みたいに……………	94
近く遠く夏の終わりの眺めから……………	96

食へと抜けた散歩の味	98
本には足がある	100
昔も今も大人は凄い	102
何か別なものに	104
つい気になったこと	106
いつから刻んでどこへ	108
日々をつなぐ調子の行方	110
あり余るほど足りない	112
見忘れたような感触の夕暮れに	114
心身の停留所で	115
隠れんぼみたいな写真	117
引き分けられない光景	119

赤い三角形：：：：121

オトナ語からインコ詩人までの散歩：：：：122

出す出さないじゃないだろう：：：：124

身体を体感する：：：：125

走って跳んで投げて踊って：：：：127

今年の味暦をしめくくる：：：：129

立ちションしたくなるような一日：：：：131

暖かなすべり出し：：：：133

お正月モードから立ち上げ：：：：135

丸腰の行方：：：：137

見た目の乗り違い：：：：139

そのうちやり直せるうちに：：：：141

除雪や圧雪さまざま：：：：143

小さな声で	144
成績や運動の出来なんて	146
転がる日々に	148
息を継げた大谷さんの面影に	150
節目の渡り鳥に	152
春の草むらから	154
「奇」はチョット気になる「記」	156
老・幼をつなぐメビウスの輪	157
立ち枯れるまえに	158
遅すぎた宿題の仕上がり	159
ようやく五月晴れに	161
水鏡の底を抜く	163
振り返れば地球儀が	165

ぬかるむ季節をくぐり抜け：：：166

雷様も知らないよ：：：168

戸惑うこだわり：：：169

あやうい味：：：171

事の左右はどちら：：：173

夏に忘れぬ立ち姿：：：175

カラスも行水：：：177

恋も動きも：：：179

あれこれ模様替えでも：：：181

人心を操作するリモコンでもあるまいし：：：183

年を越す身のこなし：：：185

老いの転機はどこから

体力を持て余し気味なのになんだか内臓の辺りがお疲れのよう

ほどほど食べそして呑んでいたようなのに過食気味になるくらい

長めの正月休み明けに七草がゆ^ゆつてのが良い案配だったろうけど

今年のが家は七草以外の菜^{さい}つ葉が入った^まうどん^んが胃に優しかった。

ママさんバドミントンで遊んだ翌日は立山山麓でのゲレンデスキーへ

インドアやアウトドアでいつも気になるのは目上と思われる人たちの運動姿

なんだか中毒みたいに気合いの入ったのからおつき合いで仕方なしまで様々

馬拉ソ^らンやトライアスロンなどで亡くなる高齢者^たつてどうなんだろう？

夏山で歩いたことがある北アルプスの唐松岳や八方尾根でこの冬に

遭難したり亡くなられた方々の年齢も54から68に及んでいただけ

どうやら高齢者が体を鍛える時代に入り込んだという傾向と相まって

新年早々から地元や東京で相次いだ独居お年寄りの焼死が侘びしく遣る瀬無い。

三木武夫記念館で戦争の無残な体験から学び憲法第9条の理念に基づく反戦を訴えて

「今の日本の首相は幼すぎて戦争とは何かわかっていない」と三木睦子さん（85歳）が言い

マリコ・テラサキ・ミラーさん（70）が「ブッシュ大統領も同じよ」と応じたそうだが

元気に握手を交わす日米のおばあちゃんの新年の物言いは真つ当で清々しく響いた。

60歳を過ぎてしよせん余所事の難民救済事業に邁進した緒方貞子氏の本を読んでも

それこそ大変な現場を抱えて厳しいことはこの上ないがどこかの外れというか

どうあがいても相対的にしか生きられない人間の本質的なあり方から逸れる道行き
事故「死」と隣り合わせのように見えてどこか自然死から遠く手が届きそうにない。

そりや残された者にはびっくりだろうけど運動中に亡くなる高齢者もあつぱれ！

なんだかうらやましいくらい大往生に見えるのはどこか自然死を目指す途上で
ぼったり果てた得がたいものを感じたりしているみたいなんだけど違うかな。

(03.01.10)

老若は身近な楽しみ方から

あんたら自由にやれなくても自由にやろうとすればいいんじゃない、先週末から再開したスポ少バドミントンに集まってきた子どもたちのなかなか思い通りにシャトルを打てない姿をみていて思ったのだ。

いつどこに飛んでくるかわからないものを自在に打ち返す難しさも

レシーブだと相手に合わせるコツさえ体得すれば練習次第で上達するだろうが自ら打って攻撃を仕掛けるとなるとどれだけ練習しても超えられない壁にぶつかる。

寄る年波とともに身近で些細な歓びに導かれるような生き方が望ましいけれど

これからの子どもなんかはともとてもそんなわけにはいかないようです。ステップバイステップを飛び越えたような結果を求めて目先の楽しさを忘れがち。

どれだけでも一定方向に重ねられるバドミントンのシャトルコックをヒントに

結晶になったり液晶になったりする「C60」を合成した学者のアイデアみたいな。何とか週1回2時間の3年間でそれぞれ子どもが上達できるきっかけを目指したいな。

「立ち技系はセンスですけど、寝技系は努力なんですよ。

打撃ってなにかが起る前に仕掛ける技でしょ、でも、寝技は相手の動きに反応する技なんです。」(T・K)

総合格闘技に参戦した柔道5輪金メダリストのセコンドについていた優れた格闘家の言葉を思い出したけどセンスのないヤツはどうする？

日々の練習にしたって些細な手応えに反応する発見がないと続かない。

どうやら若年も高齢者も運動する意味を見つげにくいのか続かないようだけど

やってみなきや判らないことがやった分だけ身体を通り抜けるような領域に

身体をあずけざるをえない時間を保てると暮らしのフィットワークもより身軽だが

そんなふうにやりたくてもできなくなって初めて身近で些細な楽しみが大切になってくる。

(03.01.20)

お後は知らない曲がり角

ふと十代の曲がり角で何気なくジャズを小耳にはさんで以来随分になるけど、ジャズの日^ヒができてたなんて知らなかったよ、なんでも January の「JA」^ニ「22」を「ZZ」に見立てて一月二十二日になつたらしいけどジャズ凋落の響きがするね。

ここんとこの冬空もぱつとしないお天気めぐりでゲレンデならぬ体育館がよいで身体をほぐしたり、気分転換に部屋のかたづけや模様替えに流すのもジャズ一本槍じゃなく早川義夫やロッド・スチュアートなども。

去年の暮にテレビで見た井上陽水ライブがジャズ風味だったりヨメが買物ついでに手に入ってきたロッド・スチュアートの新譜CDから大好きなアメリカン・スタンダードを歌いつないだ嬉しさが漂ったりいかにも音楽的出自が落ち目のミュージシャンがおちいりそうで新たなファン獲得の狙いもあるからかコクが薄いスウィング感のわりにながく培ってきた受け皿で下降気味だからこそ出せた良さつてもものが響いてくる。

あれこれ世評に惑わされることなく愛でるものを自分で見つけるそんなワクワクする楽しさを飽きることなくギリギリまで体現し言いたい放題を貫いたスーパー・エディター、ヤスケン、安原顕氏の新しい書き物からジャズや映画や小説の数々を教えてもらってきたがとうとう氏の訃報（1／20）を知ることになってしまったな。

追っかけ気分を楽しませてくれたミュージシャンや物書きが
一人、二人とどんどん自分からいなくなっちゃうと後釜は続かず
もう誰もいないから感性を狭めず見切らずいま・ここでしばし佇むばかり。
(03.01.23)

脆くも踏ん張る

何もセンモンカ的暮らしも3年目に入ったりするとそこそこ面白いテレビや新聞にも飽きてきたようので二紙とついていた新聞もとつくに止めてしまったしテレビも「サトラレ」とか「王様の 레스토랑」みたいに平日の夕方の再放送をまとめて見たくらいかな。

よせばいいのについつい目についたMLに登録したりして未読で溢れそうなメールボックスがゴミ箱に直行なんて相変わらず愚にもつかないことを繰り返すやじ馬根性のだらしなさをきっぱり入れ換えるみたいに登録解除したら迷惑メールが増えちゃった。

気が向いた先々でその道の達人と見做せるのが絞れたら後をついていくというよりひたすら追いかけていたいけど、誰が何と言おうとひたすら問口は広く詮索しておかないとこれはと納得させられる手応え無しに年を食ってしまいそう。

どんな風に映画化されたかまだ見ちゃいなんだけど

「浅間山荘事件」を最後に世代として「いま・ここ」を考え生きようとする世代は行き詰まったというか散開したまま

現在に至って「戦中返り」を呼び込むように風化しているのか？

人の営みも考えも途切れたり固まったりおかしくなったり

こりや駄目だと気づいたらすかさずそれに代わるものがないか
無駄を覚悟であれこれ探すうち新しい発見や空振りの空しさから
気づいて見たら新しい広場に迷い込んで歩き回っていたりして。

当てにならない世評なども色眼鏡の違いがあつたりして
彼が酷評するくらいだから彼女にバカ受けするんだなく
それぞれの無意識が抛って立つ場が透けて見えたりする。

相撲人気の最後の砦だった貴乃花が引退を発表していたが願わくば
嫁さんが可愛い朝青龍と対戦して最後の花道を飾れたらよかったのに。

(03.01.27)

幻想の図書館

アガシとウィリアムズ姉妹の真夏の全豪オープンテニスの2週間に続いて
守備力No.1チームが攻撃力No.1チームを破った第37回NFLスーパーボウル、
衛星テレビで毎年楽しんでいる一月のスポーツイベントも終わってもうすぐ2月。

図書館といつても一昨年やめた職場のことじゃなくて年を越すように読んだ
村上春樹の『海辺のカフカ』の重要な舞台になっていた私設図書館なんだが
小奇麗で趣味的というか個性的なようで何となく貧弱なたたずまいなんだよね。

実際に働いていた図書館のことだといまいる人たちの手腕に頼るしかないし
気にもならないんだけどなんで小説にはめ込まれた図書館のことがときおり
佐伯さんや大島さんといった図書館員の顛末以上にあれこれ気になったんだろう。

主人公の少年その他の登場人物を動かす場として設定された図書館の在りようが
おそらく著者の現実認識を象徴しているといつても間違いないんじゃないだろうか。

引っぱり出した『古代アレクサンドリア図書館』（中公新書）を読み返したり
新たに図書館サービスやコンピュータ通信ネットワークの概説書を手にしたたり
長かった図書館勤めから遠く離れたところでどれだけ現場の切実さを思い描けるか！

昨年の秋にやっと国立国会図書館の雑誌記事検索サービスが使えるようになり
今月から文献複写サービスもオンラインで申し込めるようになったみたいで
自宅で文献を調べて読みたい現物のコピーを取り寄せられるってのが現在の様子。

過疎の地から宇宙まで世界視線や普遍視線を行使するみたいに沈黙が読み込め
あらゆる触手を広げられるような時空を目指せる基盤に位置する広場のように
手軽に知のどこでもドアを出入りできる行き先が開けてくるのはいつのことかな。

なくんて空想していたら「甲村図書館」から借り出したみたいに南アフリカや
チリ生まれの女性作家の小説に見事にはまった活字中毒患者状態も悪くないぞ。
(03.01.30)

のんびりやろうぜ

自分の中の老いに気づくというか本当に目覚めるのはひよっとして体内の自然性に逆らおうとし始めるからではないか？

2月に入って一日置きにスキーやバドミントンをやっているこの頃の自分が衰えに反抗してるんじゃないかと気づいてももう年なんだからと鍛えることを廃業しちゃ駄目なんだよね。

万引き少年逃走死亡事故でいったん廃業した書店の業務再開ニュースの裏側に性懲りもなく見え隠れするのは、何事も行為の結果からその善し悪しを決めつけながらどこまでも自分を棚上げにしてしまう市民根性だろうか？

どうせ遊び心なんだろうからケチケチせず漫画の五冊や十冊好きにさせられるような心情を庶民はどこかで無くしてきたのだ。

一昨年の夏に身体にガタがきてパツタリ仕事を辞めてからあちこち痛んだ関節を直し気力が縮まないようにとにかく足腰を鍛えておくというのがボクのリハビリになっている。

なぜやるの？と尋ねられても答えようがないから他人から見るとマイナスの運動にしかなくていないがどこまで本気で夢中に遊べるかにかかっているだけだね。

テロや拉致事件から先ごろの米シャトルの空中分解をめぐって
騒々しい世相はいよいよ大げさで浮き足立ってきてるみたいだし
この世でおさまりかえってられる場所なんてどこにもないから
思いがけず素浪人の在宅暮らしを続ける愉しさもひとしおというか
ヨボヨボのお袋がお茶を点てジャンゴ・ラインハルトが響く午後が過ぎた。
(03.02.06)

匂い立つ日々

ふと窓の外を眺めたり買い物や散歩に出てもどことなく感じる色合いのどこかにまだ春は来てはいないが確かに匂ってきたり

手にした新刊本の頁に「寒冷の中で、いま春は匂っている。」という文体の花が咲いたりして安くてフィニッシュの良い赤ワイン日和だね。

映画館で見逃した「ムーラン・ルージュ」をDVDで観たりしても

美味いエスプレッソみたいなほど良い濃さだけはしっかり愉しめたし
バタ臭い場末のパリに80年代ヒット曲を唄わせた仕上がりは耳に匂った。

いつも山肌を吹いてくる風や刻々と色が変わっていく空を

見上げたりする立山山麓のグレンデに真っ先に春はやってくる
という中年以来のボクの定番の季節感だともう冬が終わったようだ。

卒業をひかえ色気はまだだけど見違えるほど背丈が伸びた姿を見せた

中学生二人の相手をしたらバドミントンを続けられる高校を選んだとか
ハイクリアの勢いにも若さが匂ってくるようで一花咲かせてもらいたいな。

先月の円形劇場ヘリオス 福野文化創造センターでのまたとないライブを

聴き逃しCDで愉しんでいる吾妻光良&THE SWINGING BOPPERSの笑ってしまおう
唄と演奏のB面みたいな響きの向こうへおっさんの熱くいかかわしい匂いも消えたか？

日差しも日一日と長くなる午後に聴くにはちよつとどうかかなとヨメが言う

早川義夫のライブ盤に匂う暗さなんか中年だからこそその唄い出しがよくて
どこからともなくやって来る春の匂いの消え行く先の泡立つような新緑の陰で微睡みたくなる。
(03.02.10)

崩した体を掌のように返す

二日間以外はスキーかバドミントンに興じた一週間が過ぎたら
疲れ具合を含めた運動時と普段の身のこなし方を思いあぐね
打ち合わせに誘い出された帰りのバス待ち時間に本屋を覗いたら
ホームページを立ち読みしている甲野善紀武術家の新刊本が並んで
買って帰ったらどれも興味深く読ませてくれて止まらないね。

2月で白寿を迎える三浦敬三スキーヤーの踏み込んだり
身体をひねったり回し込んだりしないで滑走する姿や
ガードされた瞬間膝を抜いて後ろに倒れるみたいにシュートする
NBAオールスター戦出場選手の身のこなしに見とれたり
中学でやった剣道の技を思い返したりしてみても
身体を使うことと操ることには千里の径庭があるみたいだ。

風でふらふらする一本の糸の先の蜘蛛に見とれるうち
やがて定めた空間で見事に身を操って妙技を繰り広げ
ようやく張り上げた網の中心にピタッと収まってしまう。

無理も無駄も感じさせない流れで繰り出される糸も
粘着するのとそうでないのをしっかり使い分けていて
蜘蛛の巣は捕獲と補強がちゃんと組み合わせあった仕上がり。

風の通り道と軒下の樹木や電線をたちどころに察知する

蜘蛛のような動きとエネルギーの糸を網の目にして身体や
道具を操ることを夢見るくらい自分の現状のレベルは低いけど
ふとした縁に招かれたのか若い人相手の司書科目の準備をする
思いがけない流れで図書館資料の運用操作法も考え直さなきゃ。
(03.02.13)

素晴らしい立ち上がり

飛ぶ夢を見なくなつてどれくらいになるだろう？

ふと数えたりしてしまうくらい「ピンポン」のタイトルバックは青春映画の始まりのシーンとして何度観てもいい出来栄えだなく。

バレンタインには関係ないけどDVDの発売日の2月14日が待ち遠しくて期待してなかったおまけの特典ディスクも意外に楽しめ自宅での映画の楽しみ方もすっかり変わってしまったようだね。

画面の大きさ以外に映画館とホームシアターの違いって何だろう？ やっぱり無為の過ごし方の違いが一番大きいというか居心地の違いは雑踏の延長みたいな赤の他人に紛れ込んだ肌触りのあるなしが決定的かな。

何かいいことないかな？も無性にどこかへ出かけたくなつたりするのも若さが自然の命の雑踏を求めそこで寛ぎたがっている仕草の現れだろうしひきこもりだって飛ぶ場所が見つからないエネルギーが内向するんだろうか。

この頃はライブに足を運ぶこともほとんどなくなつたけど

わが家のサラウンドシステムが直つて臨場感が楽しめるようになったせいか晴れ間の散歩で見つけた「渋さ知らず」のライブCDも飛んでるようでもっともっと「何じゃこりゃ」を爆発させる演奏を聴きたくなつたよ。

装置や部屋のおかげで映画や音楽やスポーツまでがホームシアター化して

雑踏の居心地から遠ざかったというかはしごまでした銭湯にまぎれこんで
それぞれの無名を洗い流したような日々の陰影はどこへ行っちゃったんだろう。

そういえば飛ぶ夢と対になってたような墜ちる夢からもすっかり遠のいたようだ。
(03.02.16)

チヨット寂しげなニュース

平日（2／17月曜）のスキーを満喫して帰って寛ぎながら
ちよこつとメールリング・リストを覗いたりしてただけだよ

「Subject: [webhunter2:0537] news 中止のお知らせ」にがっかり！
主催者の chickencho.com サイトも突然の様変わりでびつくり！

確かインターネットの幕開け期の「初代検索の鉄人」で名を覚え
切れ味のいい検索の狩人的サイトの覗き見専門の常連にはほど遠いが
図書館業務の現場にいた頃は検索がらみで随分参考にさせてもらったな。

情報を切り取ってくるハサミの使い方がユニークというか
とても際立っていたクリッピング情報を毎日のように届けてもらえ
高屋敷界限に蟄居しているような居心地もまんざらじゃなかったよ。

パソコン通信しかなかった頃から「掲示板」や「フォーラム」など
インターネットに乗り換えて「ニュース・グループ」や「メールリング・リスト」に「メルマガ」でも
出不精の割にあちこち出歩きたいに覗いたりしてきているようでも
思わず「ビンゴ」と叫び出したくなるような電腦広場にはなかなか出会えないもんだ。

一方的に恩恵のもらいっぱなしというか利用しっぱなしというの

「オープンソース」という精神の目立たない浸透の成果のひとつみただが
ネット社会に定着しつつある仁義の裏でも芽生える「御恩報謝」をどう
根づかせたりもらった情報の咀嚼に生かすか宿題になりそう。

時の流れとともに新たな読者の目に届きにくくなった著名な思想家の座談や鼎談記事を収集し「資料集」として刊行してきた編集者に

事前の断りなく「掲載」されたと「抗議文」を送り付けたのが

大学の先生に成り上がったか成り下がった物書きのご仁だったようで

どうやら紙で表現する倫理の抛り所も現実には歩を合わせ確実に退廃して物寂しく侘びしげな物書きの消息風景の一コマなども昨秋に見かけたんだけど。

創造的な活動はたいてい何らかの代償をともうという裏面が見えないなんてま、人それぞれさまさまなりセットのし方があっていいわけだけど

来し方行く末だけはきちっと見せてもらいたいとか確かめたいね。

(03.02.20)

自前の脚で立って歩く

わが家を建てていた時はやたら新築中の家が目についたり
ヨメの妊娠中は不思議にお腹の大きい女が気になったり
街中へ出歩かない在宅不良中年みたいな暮らしでも
娘が二人目を身ごもった時などたまたま時期が重なった
よしもとばななの出産に至る日記を追いかけたりした。

後遺症もあつてどうやら難産な自然分娩だったようだけど
出産直前まで食べ尽くす様子はお父さん譲りというか
吉本家の二代目食物中毒ぶりを發揮していて見事なくらい。

アメリカのシカゴやウエストウオリックのナイトクラブの事故や
ニューヨークの石油施設の爆発による犠牲者のニュースに
韓国の大邱（テグ）の地下鉄炎上による犠牲者のニュースなど
生活圏としてはずいぶん遠いのになんとなく臭い感じだね。

アメリカの軍事関係者がイラク攻撃の展開を説明するのに使ったのが
「ヒロシマ効果」だったなんて被爆者や戦死者はいまだに死にきれないし
ヨーロッパ諸国はまだしも日本の総理および外相のようにあからさまに
ブッシュ政権支持というか武力行使への加担を促すようなふるまい方は
昨年12月にあれこれ議論もないままインド洋に出向かせてしまった
海上自衛隊のイージス艦の航跡をもっと先へ延ばそうとしているみたいだ。

いまどこで誰が何をどう話し合っ
て日本の方針を決めつつあるのか

まさか行き当たりばったりという
ことはないだろうけどどうなん
だろう？

世論は「武力行使」か「査察継
続」の二つと「どっちつかず」
みたいだが

この地球上で日本だけが理念と
して提示し言い続けられる立
場に立てたのに。

嬉しいじゃないか、日本の戦後
思想の生みの親に孫ができた
なんてね

そのうちばなな夫妻は日本を
離れて男の子を育てるのかも
しれないけど。

(03.02.24)

知的アイデアは誰のモノ

どなたでも思いのままに使えるものがこの世にあるってことは誰にとっても思いのほか便利で役に立っていいよね。

許可なくして何も始められなかったらいろんなことをする前に疲れてしまい生まれるものも出てこなくなってしまう。

誰かが確かに考えぬいて公開したもののこそどのような転用もまったく自由であるのがほんとうの公開者として望むところであろう。

盗んだり真似したりやり続けた結果の寄せ集めそんな図書館が「引用」の連鎖に見えたりして。

一方的にいろいろしめあげようなんて「コピー」と「編集」を根絶やしにしたらガラクタ文化のゴミの山も片付かないよ。

才気ある〈個〉が生み出した知的なアイデアをどうやって〈類〉として使い続けられるようにどう保つかというのが「著作権」という制度だ。

考え出されたアイデアを登録しておくのは
それがどんな内容か見ればすぐに分かって
他の人にその考えが伝わりやすいからだ。

独創されたアイデアが公開の場に出た瞬間
たちまち知の炎のように万人の所有に向かい
誰も受け手となることを拒むことはできない。

いつでも元のアイデアにアクセスできるよう
公開されていればどんな使われ方にも関与しない
言論の原理原則を貫く人もいてくれないとね。

(03.02.27)

サラサラと三月に

気がつけば三月サラサラと弥生の流れに誘われて

『アルゼンチンババア』『バナタイム』『ハゴロモ』の三冊が

それぞれカタカナの感触で手短にスッキリ語りかけてきた

二つと無い人と人が出会い触れ合う場で色づく流れが美しくて

ひと皮むけたばななの新刊の読後は匂う川を遡るワインのよう。

マー君は下痢嘔吐症になるわヨメは歯が駄目になって食べられず

シーズン残り少ないスキーもお休みにしてテレビでスポーツ観戦すれば

ゴジラ松井MLB移籍オーブン戦初ホームランが2月を締めくくり

4階級制覇してWBCへビー級チャンピオンに挑んだロイ・ジョーンズが

ボクシング100年の体重制の壁を破って3月の幕を開けたようだ。

柔らかく動いてお愛想もはじめたミーちゃんもそうだけど

知らず知らずくたびれかけた頃に幼い命の誕生にめぐりあえあたりすると

世の中の見え方も違ってくるようで通り抜けたサラリーマン社会も

たまに現役の人と話す機会があったりするとまるで夢の続きのようだ。

1枚の原義書を何回も書き直させられたり肩書きが独り歩きしたり

現実のようで現実離れた面白可笑しい独特のハンコがモノをいつたり

気を配ったり根を回しても技ありになったり恋愛沙汰から不倫はもちろん

組合運動や運動会や課内旅行やら先輩後輩から立身出世まで揃い踏みだよ。

食べているモノ着ているモノの日常性こそ世間を無事平穩に潜り抜けさせ
生涯の装いが変わることにもなりがちな節目の季節を縫い合わせたり
人それぞれの日常と非日常生活を量らせてくれたりする目安のようだね。
(03.03.03)

明暗もおぼろげな日々

やけにざわついたひな祭りの北陸が春一番だったそうだが翌日の寒波で平野部にも小雪が舞って冬に出戻り気分です。部屋に閉じこもり春からの新しい仕事の下調べの合間に、

届いたばかりの「詩の雑誌」のページをばらばら

「おばさん」直前のハルノ宵子が連載コラムで

「日々デカくなる妻の腹を見て」そして

「産まれ落ちた我が子を見た瞬間」に世の父たるもの
どう感じるかをほぼピツタリ書き当てていましたね。

我が子そして甥や姪とききてとどめが孫みたいだけど

誕生の際の違和から伸び広がる距離と幅が己の甲羅に

刻みこまれている。あてどなきを際立たせ、親和や憎悪の

独特の奥行きと立体感をそれぞれの家族にもたらしたりする。

たかがスキー遊びにしたって一人で滑ってたゲレンデの同伴も

やがて妻子ともどもからついに孫とも一緒にということ

薄陽さす穏やかな啓蟄のゲレンデにマー君を連れ出したら

ミーちゃんを抱っこして娘も一緒という成り行きが楽しめたよ。

ソリ遊びに飽きてゴンドラに乗りたがった10Kgを背負って

3月にしては雪質がいいコースの3キロあまりを滑り降りたりすると

十代の終わりから腰痛が出るまでの10年間の山歩きで担いだ
荷物など比較にならない気疲れも背中から伝わる^まはしやぎ^まで帳消しに！

去年からわが家のスポーツ後の愛聴盤に加わったノラ・ジョーンズが
先ごろのジャンル分けも曖昧なグラミーで8冠受賞して騒がれてるようだが
宮崎アニメ^ま千と千尋の神隠し^ま現象と同じでマスコミが煽り立てるだけ
内容が人気に堪えられるほどのものじゃないってことがぼやけてきてる。

(03.03.07)

引退後の人生はどうか？

晴れ間から小雪がちらついたり寒暖も目まぐるしい
ざわついた季節の変わり目の胸騒ぎが庭先にも届いて
手触りもいい天然木伸縮式ラックを買い込んだ勢いで
いつの間にもやらあれこれ床に溢れたモノを片付けながら
テレビで日米それぞれ野球のオープン戦の見比べが面白い。

立命館大学に合格したエクスポズの大家友和投手が会見で

「引退後の人生の方が長い」ということも言ってたけど

サラリーマンだってその通りというかただ長いだけじゃなく

引退後の方がより幅広く深さも増すんじゃないだろうか。

ナビスコカップの大分トリニータ対京都パープルサンガ戦の報道では

大分の選手がケガをしたので京都の選手がボールを出してゲームを切り

大分の選手が京都Gキーパーにお礼に返そうと蹴ったボールを

パスと思って受けた大分のロドリゴがゴールを決めてしまい

これをアンフェアな得点と思った大分の小林監督が自軍の守備放棄を指示し

京都がなんなくゴールを決めてこれでイーブンにして試合再開にしたとか。

ロドリゴを止めになかった京都はどんなゲームプランで戦っていたのやら！

大分が非難覚悟で得点したのであればなんで献上点なんかでゲームを汚したの？

馬淵監督率いる高知・明德義塾高校が星稜高校3年生の松井秀喜選手を

5打席続けて敬遠した平成4年夏の甲子園の出来事に負けない後味の悪さだ。

世論調査による7〜8割方アメリカの武力行使反対見解について

「世論にしたがっている」と間違っていることもあるから」と言うからには
じゃあどのようなように間違ったりするのか小泉首相のプランを見せてもらいたいよ。

「神は人間の計画を聞いて笑う」（映画『アモーレ・ペロス』に出た台詞）だなんて
やり直すことのできない計画を笑えるような神に誰がどうして出会えるというのか
人生設計も人それぞれだろうけどとにかくどんな場であれ現役続行中に
行く先さまざま引退後の種がもう蒔かれつつあるのではないかな。

(03.03.10)

春先の間奏曲

あつという間に過ぎた2月は降雪もほとんど見られず

庭木の害虫の駆除をしてもらい雪吊りはずしも済んで春も近い
今週前半はことのほか山間部が大荒れに吹雪いたようで

3月半ばにして厳冬の晴れ間のような眺めにタイムスリップ！

樹氷もどきの着雪樹木が新雪の深さを測るように斜面に影を落とし
立山山麓のゲレンデを滑る眺めがまるでCGみたいな透明感で迫って
いつものようにガラ空きのスロープも一気に滑り下りられない風情。

もうほんとうに好きで時間とお金がある人しか来なくなつたんよね
毎シーズンお世話になつているお店の女将さんが言う通りだが
そんなスキー場の華だったパラグライダーの姿も今じゃ仰げないよ。

当たり前のように目にしていたものもふと変わつてしまい
気がつけばいつの間にか違った景色を滑つたり感じるように、

「スキーが自動車だとすると、

スノーボードは単車のようなだと思いました。

走り方に幅があつて、いろいろな滑り方ができて、

スキーより体が使えるんですよね。」

広告デザイナーの卵からスノーボード界に身を転じた

というより自分にとってこれしかない。出会いを見つけ出した

山岡聡子選手が自分で選んだ滑りで世界に届いた風景も素晴らしい。

(03.03.14)

春を食して

雪の下から掘り出したばかりの露の臺の天ぷらや
ホタルイカの辛し酢みそ和えに白魚の踊り食いなど
今年のご近所で春先の定番に水ダコの切り身が絶品。

米国などによるイラク攻撃に反対する富山市内での
十五日の集会やデモで歌われたかどうかは知らないんだけど
S M A Pの「世界に一つだけの花」が市内の某小学校の卒業式の歌に。

毎日のように暖房を繰り返す部屋の花の日持ちが悪く
暖房が届きにくい玄関や洗面所の切り花が咲き揃うような
クールな飢餓感からはいつまでたっても卒業できない。

のびる手を手に訪れた知人がカービング・スキーの極意を
一頻り語ってくれたけど人それぞれ体得したものと
どこかで触れ合って開花する感触があったりすると心も踊る。

いつの間にか讃岐から稲庭にうどんの好みも変わったようで
いつもの春の窓の開き具合もちょっとだけ違っていたりするから
少しでも日当たりがよく自由に羽ばたける方へ出かけたいな。

誰だって帰ってくる場所はいつも同じようだけど
その時々にあわせて部屋の向きが少しだけ違っていたりすると

かつて通り抜けた窓も新しく入れ替わったように眺めも変わる。
(03.03.17)

無題

全日空チェックインシステムのトラブルで出鼻をくじかれた
行楽客のさえない気分が花粉症のように広がったかな

まるで映画のタイトルのような「48時間」の予告どおり

昨日(3/20)の昼前からほとんどのチャンネルが「本編」に

打ち出されるミサイルや飛び出していく戦闘機やしたり顔で
解説している面々で飾られたメディアのどこに〈戦争〉の報道が？

立山連峰が眩しい三連休初日の高屋敷界限は
まるで冬休みの名残みたいな静けさでいいよ

人々がほんとうに追いつめられたら自力で戦うしかないから
助けを求められたりしないかぎり誰が出張っても解決しない

憲法第九条を骨抜きにしてきた戦後の日本政府はここへきて
国連をも蔑ろにしてしまつて残った手札に頼るしかないのか

誰も止められなかったからといってそれぞれの思いも
いろいろ反対する理由もなくなったわけじゃないから

時には日の底まで下りていって手探りで何かを探したり

はい上がってぼんやり風に吹かれたり疲れたらお酒を飲もう

何もかも使い捨てるみたいにとこまでも追いかけるように

繰り返し繰り返し滑り降りた今シーズンは200キロ行けたかな？

(03.03.21)

春休みの息抜きに

今年度最後の三連休最終日はスポ少バドミントンを締めくくると行事に出て地区センターの2階から春のゲレンデを想ったりしたけどいつも以上に送る子どもらの呼吸が合ったお別れ会が格別で娘夫婦と珠洲の実家からの鮮魚を着に夜中まで呑んだ後なのに爽やか。

しつかりその場の空気を感じ取った送る言葉のリレーがこれまでになく滑らかに運ばれるようになってきて終わってからの父母との懇親会でも話題になつたくらい。

新年度を迎え4月人事の内示が終わる頃はちょうど春休みの息抜き
昼時にインターネットで確かめた第75回アカデミー賞(3/24)の
受賞風景をテレビで見っていたらドキュメンタリー映画賞のステージから
受賞者がスピーチでブッシュ大統領をこきおろして会場は喝采とブーイング。

長編アニメーション映画賞の受賞者の不在つてもわからなかったが
進行中のイラク攻撃の意味といったことがもつとも分からないね。

持ち直せない失業率に肉体労働と精神労働の境界もぼやけてきて
多発する人心事件の原因も動機も掴めないくらい正常と異常が入り乱れ
価値破壊が示すモノの意味と価値の崩壊の行き着く先はどうなっているのか
利潤と優劣を競う際限のない過剰消費型社会の成り行きそのものなんだろうか。

個人が好き勝手に何をやってもいい自由から
それによって誰かが何かを被るしかない不自由まで
見透かしたように温かい雨を呼吸して庭木が背伸びをする頃だ。
(03.03.25)

軒先の向こうで狂言回し？

午後の暖房がいらなくなるような日和続きで
軒下の灯油タンクへの補給量に迷ってみたり

メールボックスから定年退職挨拶の花が実を結んだり
反戦と反米のけじめもつかないアメリカ製品不買運動みたいな
風向きまかせの根無し草の市民運動の徒花が散り急いでいる

欲しくて必要なモノの出所や由緒なんかどうでもいい
安くて良いモノを真つ先に買うのがあたりまえじゃないか

外務省に泣きついた「人間の楯」なんてのもあつたみたいだが
茶番を演じ間抜けをさらし格好悪くとも命だけは守らなきゃ

独り者であれ夫婦者であれ市民主義者つてのは裸の王様なんだ
見えない気づかないふりをすればするほどフツーから遠ざかる

家庭的になつたり所帯じみていく以外に何に肩入れできよう
なのに夜には何やら肌寒くどこから吹き込む不安なすきま風

こっそり庭先に入り込んで羽音と鳴き声の置き土産
明け方のキジの目覚ましがやって来るようになって
和らいだ朝の寒さの奥から光が匂い立つ時節になつたのに

軒先の向こうからぼちぼち花便りだけじゃなく
日常になんか変なものが入り込んでいるからだろうか
連日の選抜高校野球もプロ野球の開幕も百円ショップのノリみたい。
(03.03.28)

地に棹させば霊が出る？

ちよつと襟を正して新年度という人から
気ままに起きて好き勝手という人まで

何となく気になる土地柄というかお国柄

イギリスへ出かけた女性3人のカントリーバンド

「デキシ・チックス」のメンバーの1人が演奏の合間に
「大統領が同じテキサス出身で恥ずかしい」と言ったら

全米ラジオ局の一部でバンド演奏が放送禁止になり
ルイジアナ州ではCDがトラクターで押し潰され
メンバーは「私は祖国を愛している」と謝ったとか

富山もどちらかというと他所者とか流れ者とか
地域や職域をはじめあらゆる場所で見られていて
どれだけ土地に根付いているかいないか噂になる

田舎に引き揚げてきた自分のようなものだと
小学校入学から中学卒業まで鍛えられ続けたから
地元の高校を避け同級生が通わない進学先で

ようやくイジメとは縁が切れたけど
出生地が国内じゃないということとは

どうしようもなく詮索されたりした

〈時間〉という了解作用の認知の違いそのものが

ひとつの世界をあれやこれやの地域に分割している

根源に気づいてもなんら事態は解決しないのだが

手をつないで近所をあちこち地霊探してみたいな散歩をしても

自分をお寺参りに連れていってくれたジジババみたいなの

土地にくるまれたような孫との過ごし方なんて思いもよらないよ

(03.04.01)

早起き鳥の目で見ると

旧郵政事業庁が「日本郵政公社」に変身し
「平成の大合併」のかけ声が聞こえてきたり
もうすぐ「2003年統一地方選挙戦」だね。

わが家では朝間野球などと言い交わして
早く目覚めた時のBS大リーグ中継の観戦で
日本からアメリカへ野球転勤した松井選手の
仕事ぶりに眠気を覚ましてもらったりしてるよ。

夜の部の日本野球にはあんまり目が向かないが
桑田投手の初登板の夜はバドミンソンの稽古を
サボって昨年来の投球術の使いこなしを確かめた。

タメナイ、ヒネラナイ、ウネラナイ投球といっても
右の膝でタメてるじゃないかという解説者と違って
膝を下げて生じた位置エネルギーを起点に
身体内部を崩すようにして力を腕に振り込んで
手首を起こした指でボールを弾き出して
どこにも力みがないピッチングに見えたんだ。

枠外のトーシロの見た目だから当てになんないが
「9・15阪神戦、チケット人気のナゾ」なんて

半年先の優勝争いの山場が分かっているみたいなの
タイガースファンの読みってのも半端じゃないし
秒読みに入った地元開花宣言なみの確かさだといいいね。
(03.04.04)

風まかせの春の宵に

季節の移り変わりというか年のせいというか
だんだん寝覚めが早くなったといっても今朝みたいな
BS午前2時の松井タイムにはとても間にあわないね。

一昨日はたまたまというかちようど5時頃に目覚めたら
巡ってきた五回裏のワンナウト満塁のフルカウントで
甘いチェンジアップを待ってスタンドに放り込む
星の下に生まれた野球選手がダイヤモンドを走り抜けた。

新学期が始まって久しぶりにネクタイなんかして
学生さんを前に図書館のサービスや目録の説明をしなきゃ
ということとで教材用のWebページを準備したり
同年配がそろそろリタイアに近づく頃にまた働くハメに。

さしあたって暮らしに困っているわけじゃなし
不意に投げられたお願いボールを見逃す手もあったのに
とにかくバットに当たって一塁ベースに立ってしまった。

またまたホームベースが遠くなってしまったようで
遠近両用眼鏡なんかも買い替えたりしてまでやるなんて
とりあえず二塁、三塁と見定めながら回を進めるしかない。

図書館で働きながら通っていた夜間部の助教授に

お前は銭にもならないことをよくやるよと笑われた

あの頃の姿からまだまだ抜け出せないようだが

一コマ終えて帰りがけの鮎盤に座れた昨夕の味わいが格別。

(03.04.11)

元気で居てくれる素晴らしさ

お袋の誕生日は大正一桁代生まれギリギリなんだが
お祖母ちゃん子の娘が贈ってくれた花を眺めながら
極上のお刺し身に白ワインで乾杯するだけなのに
盆や正月を巡り迎えるのとは違うめでたさを味わえる。

雨の朝の交差点を走り抜けるバスの窓から
ふと見かけた小走りの横顔がなんと現役時代に
僕がいた係に派遣されていた司書だったり。

とつぎに名前も浮かばない彼女が司書資格を取った
短大からの帰りがけにバツタリ声を交わせたのが
図書館勤めの駆け出しの頃からの大先輩だったり。

雨に降りこめられた日曜の午後はパチンコじゃなくて
リスニングルームで和製ミュージカルっていうのかな
『オケピ』最終日の舞台中継テレビ画面を眺めたんだが。

賭事と同じで宝塚やミュージカルはとにかく
好き嫌いがはっきりしていてとりわけどっちつかず
なんか入り込む余地の無い世界なのにどうしたんだろう。
とにかく歌も曲も振り付けもストーリーもテンポも

見事に中途半端を貫き通していてまるで昨今の
イラク報道のなかに〈戦争〉の姿が不在なように
ミュージカルの影も形も探し出せず退屈しそうで
やたら演じている役者の元氣さだけが目立っていた。

野茂投手のMLB百勝達成ニュースが流れた日に
見かけてホッとする姿にあちこちで出会えて嬉しいね。
(03.04.22)

春雨のアラカルト

葉桜を通り過ぎれば梨畑でもないけど
春雨に浮かんで匂い立つように見えて
忘れていた果樹の季節を告げられたね。

またもや新書が創刊されなんだか
より取り見取りの百科事典の切り売り
みたいだが図書館の項目はまだまだのよう。

語りから叫びまでジャズボーカルにして
逝ってしまったニーナ・シモンを聴けば
遠くなった二人の姿が夜の奥へ遠ざかる。

語るように書けたらどんなにいいだろう
などと思う前にうまく喋れないことに
あらためて気付かされている今日この頃。

非力な使い手なのにガットが切れたり
張り替えてもらったラケットを使えば
ますます衰えを気付かされ濡れて帰る。

窓の外を見るたびに緑あざやかな
庭木の手応えから週ごとの孫らに

ここんとか教え子の感触も加わった。

何をやっても一段落するたび元の木阿弥

どうしても初心に戻ってしまいうから雨降って

地固まるなど幾つになっても縁がないよな。

(03.04.25)

ふらつと出歩く五月に

むせかえる新緑の一步手前でスキップしながら
スキーに明け暮れた残雪の山肌が情事の名残り
みたいにうすぼんやりと溶けかかっているようだ。

アフガニスタンに続くイラクでの戦闘終結を
宣言したブッシュ政権が繰り広げた6週間が
重苦しくカレンダーを揺らしたこの春のナゾ。

山岳と海に挟まれた扇状地をうろちよろすれば
イチローと松井両選手の初顔合わせのMLBも
対巨人戦を負けない阪神の戦いぶりも忘れそう。

働いていた頃の自分に今の自分が養われている？
申告書類にうっかり自分を自分の扶養者に書き
見とがめたヨメに笑いとばされてズッコけたね。

昨日があり明日があるっていうんじゃない
明後日の方からやってくるかもしれない
そんな何かにリアリティがあるって訳じゃない。

asahi.comのリニューアルか何かでいったん
消えてたジャズ・カフェが帰ってきたりして

街の喫茶通いに取って代わる電腦散歩が癖に。

出かけて帰ってくる場所を探すように

ラウンド無制限の名もないリングで

この先どこまでやれるか誰にも分からない。

(03.05.02)

床下から天井裏へ吹き抜けて

重症急性呼吸器症候群（SARS）の被害拡大を防ぐための在宅読書を奨励する中国政府の

推薦図書96冊のリストを眺めながら連休に入り。

田植えに駆り出されたりしていた田舎暮らしの頃
破れ畳にひっくりかえっていたら羽アリの大群が現れ
今にも家が粉々になりそうな気分が忘れられない。

新緑の季節の裏側にはどこか邪悪な気配というか
一筋縄じゃない生命力の禍々しさが張り付いた
得体のしれない生命の糸が伸び広がっているようだ。

なぐんで、ちよつと連休ボケしちまったかな？
娘や孫に引つ張り出されるみたいに出かけ
山と海と帆船が一望できる遊覧船に揺られたり
家では映画や本や音楽でゆるゆる過ごせたのに。

観たもの、聴いたもの、読んだものみなそれなりに
楽しめたけどなんか食い足りなさが残ったのは
作品の風通しをよくする床下や屋根裏が無いからか。

久し振り2枚組LP「ザ・ベースメント・テープス」(1967録音)で

ボブ・ディラン&ザ・バンドを聴いたら落ち着いた
みたいで上等の赤ワインとともに連休を締め括ったよ。
(03.05.06)

気も変わる空模様

目に青葉なんて言うけど暑さ寒さを引き立て
冷暖房両使いの日替わりメニューみたいな日和に
田植えだなんてちよつときついんじゃない。

おまけに郊外に住宅団地が伸び広がり
出勤前の朝つばらに農作業の物音を立てると
苦情の集中砲火を覚悟しないとやってけない。

時候も季節農作業も寒暖に狂いそうだが
農業者と住人が窓越しに怒鳴りあつたり
最初はびつくりした光景も今じゃ日常茶飯。

雨風に打ちのめされた藤棚のバス停から
乗り込む路線バスは若さで立錐の余地も
目のやり場もないくらい居場所が細っていた。

人相の宝庫だった農村はどこかに消え
入れ替わった人相にどう向き合えばいいやら
親と子以上に歳が開いた関わりがましなくらい。

バブルがはじける前だと日本の少女漫画に
匹敵するアメリカのブラットパック映画など

嫁入り前の娘と心ゆくまで楽しめたものだが。

今時のアメリカのギャラップ調査では

イラクの大量破壊兵器の証拠が無かったって

世論の70%が今回の戦争をOKだったなんて。

若さに逃げ込むこともできないほど

感情に流されたり目が覚めることもなく

変わり身だけの七変化で空っぽそのものが魅力。

(03.05.09)

問答無用な週に

なんの予定も無い日は週に1日だけ
みたいなことになってたのに今週は
3日に増えてなんだかゆったり気分。

テレビでヤンキースの松井選手について
まだどんな打者になろうとしてるのか見えない
と語ったマリナーズの長谷川投手の受け答え。

平均寿命が延びたといったってただか
独り立ちできる時間なんてほんの一瞬、
むかしの杵柄は使えない持続の鼻歌まじり。

連休に見逃したタイトルマッチの再放送で
昔の名前でしか戦えない歴戦の挑戦者があえなく
引退を見越したチャンピオンに屈するのを見た。

見飽きないラッセンの複製を明るい場所に
掛け替えたら新しいリズムに引き寄せられ
朝・昼・晩といつ聴いてもいい音楽のよう。

スコッチの空き瓶に帆船の模型が似合い
コココーラの空き瓶には竹トンプボを差し

ワインの空き瓶を並べ白の周りを一周する。
(03.05.13)

なんだか中休み気分

欧州チャンピオンズリーグの準決勝で
ユベントスがレアル・マドリードを退け
決勝をACミランとイタリア勢同士で争う
展開が面白く梅雨の先走り空に浮き上がる。

依頼された小文も期日前に書き送ったし
今週の担当日が学年行事で休講だったし
ネットで調べた過去3年のデータを加え
参考図書リストをファイルにしてみました。

職場のX端末からサーバに置いた
モザイクを動かしWWWの世界に
はまってかれこれ10年過ぎかな。

手間暇かけても最良がやってこないで
いつまでたっても中途半端にうろろうろ
できるってのがひとつの居心地になって。

鼻面を引きずり回されるような出来事に
襟首を捕まれギョツと立ちすくんだり
暮らしの船底を踏み抜いて途方に暮れたり。

そんなことより異性に目覚める手前から
未知の同性との世界に触れた文体を読み
男より女の同性愛のほうに断然面白そう。
(03.05.16)

つまらなさの中味は

「酒鬼薔薇聖斗」が出所云々記事を目にし
ひそかにギョツとしたんだけど親子2代が
共作して刷り込まれた性根の行方は何処へ。

人間の皮を被った得体のしれない暴発が
池田小学校で子どもを追い回し命を奪った
言い様の無い手足や頭や臓器の呼吸の由来は。

コマーシャルでぐつと来るのは金鳥だつけ
大声で「お前の話はつまらん」と一喝する
テレビ画面の滝沢・岸部両俳優の座りがいい。

自分のいま・ここからどのような方角へも
さつと飛び散るように響いて消え去った後に
ひそかに「つまらなさ」の残響を噛みしめている。

一年前の「阪神半疑」が嘘のようなタイガースが
巨人相手に投手が投げて打って高校野球みたいな
つまらない勝ち方をした甲子園球場もご愛嬌かな。

つまらなさも面白さも入り交じった元気がいい
週刊誌を扱う出版社が報道機関になるのかどうか

手直しされた個人情報保護法を巡り取り沙汰され。

『同行衆通信36』（一九八八年八月）の後記で

「〈夏〉をやらないうで年を取るのは嫌だ」と

書いていた鎌倉諄誠さんがこの春に逝去だなんて

一瞬何もかも見失わせてどんな季節へ抜けたのだろうか。

(03.05.20)

立ったり座ったり

身の起き伏しや立ち居振る舞いが
体調不良でおかしくなったりすると
使い慣れた卓袱台が嫌になったり。

ということでは居間は椅子とテーブルに
模様替えしてから足腰の負担が軽く
食の居住性がとても良くなった。

家屋は補修を重ねて持たせていても
足腰の衰えたお袋だけじゃなく
我ら夫婦だってあちこちガタついでる。

身体が縮んできたらテーブルと椅子の脚を
一緒に切り詰め間尺を合わせていけばいい
ということでは木目丸出しの物を買ったんだが。

家族ともども何とか体調を持ち直し
まだ一度もノコギリを使わないで
やっつけられるってのが嬉しいじゃないか。

脚が畳めなくなるくらい使い古し
お役ご免になった卓袱台を捨てかね

同じく使い古し捨てかねたPCの置き台に。

ネットワークにつながらなくとも

何とか動くPCみたいなことになっても

とにかく自力で立ったり座ったりしていたい。

(03.05.23)

緑の回転木馬

緑の窓際にも倦怠感が漂う今日この頃だし
そろそろ講義も飽きられたのではなどと
寝不足気味の体調で出かけたなら全員出席。

図書館の日常業務だった利用者説明会や
文献検索説明会に加えリカレント教育とか
司書教諭の講習も何度かやらされたけど。

スポ少の子供らに怒鳴ったこともないし
仕掛けられた喧嘩以外は買ってないのに
頼まれたら断りきれない受け身の弱さか。

母と一緒に暮らさずともなんとか女に
父を知らずにいつのまにか男みたいに見て
くれだけのそんな二人が一緒に。

身過ぎ世過ぎの構えを身に付ける場を
あらかじめ失ったまま世間の波風に
さらされどう老いたらいいのか戸惑う。

異和や葛藤や反抗から拒絶といった
生きのびるのにもっとも必要な土壌を

あらかじめ断たれてしまった生き様。

いくら小説や映画をあさっても

描かれた父性になんともいえず

そんなもんかと踊って見せるだけ。

昨夕の東北の地震でさぞ揺すぶられた

大学の図書館や教室を通り過ぎる

若い顔から土の香もとつくに消え。

(03.05.27)

風の便りに

木曜(5/29)は久し振りに早起きして
UEFAチャンピオンズリーグの1点を
めぐる攻防に終始したファイナルゲーム。

PK戦を見終わった疲れをほぐすみたい
に散歩に出た近所の本屋の平積み台で見つけた
小澤浩著『ザ学長…退き口の戦いを終えて』。

先生の新刊を手にしたら一昨年の7月に人文学部
に4年遅れで入学した二人の学生と一緒に富大の
図書館内を案内してまわったことを思い出した。

著者の後を追うように富山医薬大から富大の
図書館に転勤になったのが見つかったときは
そのうち研究室へも顔を出してよと招かれたが。

その後サービス係の補佐員の首切りに遭遇した頃は
渦中の学長として悪戦を強いられていた著者に
会って相談することも憚られ我慢するしかなかった。

当サイトの【以前の〈発言〉の中から】に置いた
「ひとつの反応と見解―カラ超勤問題をめぐって」は

当時お世話になった著者の勧めがあって書けたのだった。

先生のお部屋へ一度も足を運ばないうちに
挨拶もせず退職してしまった僕は新聞などで
その後の事態を追うだけで著者の送別会も縁なし。

一読した感想は著者の思いが関係者に届かなくとも
受験生をもつ親たちが読むようになってくれればいい
何とといったって事態の主人公は学生とその親なんだから。

(03.05.30)

若鮎の響き

路線バスで6月の神通川を往復したら
わが家を建ててくれた大工さんからの
夏の風物だった庄川の鮎もさかのぼる。

5月の発売日から日ごと二人でしきりに
ときには朝晩みたいに鳴らしているのは
高校生ピアニスト松永貴志のデビューCD。

ビル・エバンスやレイ・ブライアントも
好きだったとはいえ一ヶ月も聴き続けたのは
ビートルズの一枚のLPぐらいだったろうか。

数年前の綾戸智絵ジャズボーカルとの出会い
みたいなことはもう二度とないだろうだなんて
ネットの噂で見つけた若鮎に見事に裏切られた。

思ってもみない繋がりから願ったり適ったりで
宮沢章夫『サーチエンジン・システムクラッシュ』を
一気読みするみたいなのも今じゃあたりまえかな。

例年の残雪の山肌を爽やかに揺らし
17歳のビューティフル・ラブとなって

新しい鍵盤が何処までも吹き抜けたよ。

手にしたばかりの吉本和子句集『七耀』の
頁を閉じれば響きあう絵のように耳新し。

若鮎の響き (03.06.03)

時の日に響いたもの

ねえ、6月9日は何の日か知ってた？

ばか話の答えみたいに高屋敷住まいの中年夫婦が聴いていたのは「Tim Easton」の新作。

日々の出先から戻った二人が眺めれば

今年の花見もサイクリングも山王祭も

いつの間にかやり過ぎして紫陽花が色づく。

春から耳にしたCDを聞き直す楽しみ

修理から戻ったパワーアンプをセットし

やっぱり鳴らすのは松永貴志デビューCD。

18枚目ぐらいのジョン・ハイアットも

開け放った窓からそよぐ風のように

聞き慣れたタッチで吹き抜けたかな。

1972年をダイジェストして見せた

坪内祐三著『一九七二―はじまりの

おわり』と「おわりのはじまり」と

併せて金廣志著『自慢させてくれ!』を

読み終えた食い足りなさを補うように、

2年半ぶりに届いた『風の便り15〜16号』に
松岡祥男書下ろし「風姿外伝『自慢させてくれ!』
に寄せて」が載ってて読了気分が収まりがついた。

語り尽くせないものにどう折り合いを

つけていくかに人の半生が費やされ

それでも始まりも終わりもしない時の日に。

(03.06.10)

曇り空の頃に

数日前から聞こえていたカッコウが
まるで呼び寄せたみたいな梅雨入り。

ホトトギスの托卵が孵つたみたい
先週までの爽やかな眺めを蹴落とし
雲量がモノをいう風景に山影もない。

少しも自発したり発想したりする力を
働かせないで形だけが求められたり
ざるで水を掬う場面にも慣れてしまつて。

人が集まるところ卑小も偉大も絡めて
生じた掃きだめに蠢くゴミもないと
どうやらこの世の健全さも保たれないが。

それと気づかずに「正義」を振りかざす
みっともなきにぶつかったとしても
やがて現実の波間に漂わせておけば沈む。

島国か列島か、その足を地べたに立たたせ
ひそかに違いを感じとる練習なんかを
もしやれるとしたらやっぱり梅雨時かな。

(03.06.13)

節穴の眺め

縁側のカーテン越しに半夏生がゆらり
梅雨の半ばを綴じ合わせる影のありか
迷いに迷って世間知らずの礼儀知らず。

往くがまま成すがままにまかせて
ばかりもいられないというところで
踏みとどまればどんな姿勢になるか。

竹を割ったような性格を真つ二つに
したら訳のワカラナサが生えてきて
追い出されるようにはみ出したかな。

とんだ巻き添えなどと言わぬが花で
ともに居場所となるとんだつま弾き
語りに墜ちれば翔ぶ夢見の続きが。

嫌なら何時でもやめられるってのが
何処かに無いと長続きしないという
境目の1996年のIT革命はどうなった？

道路建設投資額と通信投資額の比率が
その国のGNPの伸び率に係してた

だなんて感心している場合じゃないけど！

右左上へ下へと往還する通過点の眺め。

(03.07.01)

古い映画を見続けて

西から東へ急ぎ足の雲行きで
ざわつく風に家鳴りがしたり
よろめくように鳥が飛んだり。

身体をほぐすみたいに掃除や片付け
気分もさっぱりデスクトップの模様替え
平日の朝や夕方にBSで観る古い洋画など。

戦前戦中の都市の姿にその国の余力というか
それぞれ産業の発展段階の違いが映し出され
各国の消費社会化の先行具合が気になったり。

第3次産業就業人口が過半数を超えたのは
アメリカが1939年
イギリスが1969年
フランスが1972年
日本は1973年
西ドイツは1981年

それ以外にもさまざまな発展段階の国々が
ひしめく世界はちっとも平板じゃないのに
ついつい単一なモノの見方をしてしまいがち。

さて、僕らは今どんなステージにいるのやら？
(03.07.04)

“*”な日もある

ゴミ出し際に郵便受けにCDを見つけ

今朝のおめぎにマダガスカル生まれ

デガリーのギターの響きが届いたばかり。

ここんとこずーつと古きよき映画がすべて

でもなかったけどBSの名画劇場漁りを

中断するみたいに*のついた映画を見た。

検索式の説明で米印とかアスタリスクとか

前方一致とか言ったりしてた*印がついた

野球映画というかホームラン記録の裏話。

1961年に61本のホームランを打った

ロジャー・マリスの記録から*が消され

そして彼の人生に何か加わったのか？

仕事を辞めてから一度も野球場（といっても

年に数回のロードゲーム）に足を運んでいなくて

テレビでMLBや阪神タイガースの中継を見るだけ。

右中間のやや後方に双眼鏡を手に陣取って

両チームの練習やブルペンの様子を見たり

やがて試合が始まって遠からず近からずから
面白いヤジが飛び出したりして言うこと無し。

午後の人生の一時の居場所としても

目立たず騒がずそれでいてまたとない

逢い引きにも家庭サービスにも似合うかな。

(03.07.08)

逃げ場はどこに

見終わった時はさほどでもなかったのに
戸板に縛りつけられたようにおろおろ
うろつく姿がイラン／＼イラク国境の
岩肌むき出しの風景とともに焼付いた。

爆撃で学校を失った教師が黒板をしょって
難民状態の老人や子どもたちと同行するように
生徒を探して歩くが誰もまともに相手にしない。

1984年のイラン・イラク戦争の頃のことかな
クルド人達がイラクの毒ガス（サリン？）で虐殺され
生き延びた人たちがイランに難民として逃げてきた。

互いに黒板に泥を塗って爆撃や銃撃の気配から隠れ
少年たちは四つん這いで羊の群れに紛れ
老人たちも四つん這いで逃げ惑うしかない。

戸板代わりに歩けない老人を運んだり
黒板の一部がケガをした子の脚の副木になり
読み書き算盤以上に役立ったといえるのか。

戦禍から遠のいたように見える国内じゃ

異性へと関心が向かう直前の中学1年生の同性愛的傾向が同年配に対象を得られず幼稚園児に的を絞ったあげくの惨事に。

親は親なり子は子なりにそして第三者はそれなりにけっして相通じえないのがあたりまえとなつているところでは
背負い込んだ重さに逃げ場も見つからない。

(03.07.11)

夏に向かう鳥肌

田畑の作物の出来具合にも響くかな
先週末からなんだかうそ寒いばかりの
世相感を地で行くようなお天気巡りだ。

先月の改正著作権法の成立に続き今月は
国立大学法人法案とその関連法案が可決成立、
戦後の腐敗と形骸化を繰り返して来た
高等教育の護送船団がこれで換骨奪胎できるのか？

初体験の非常勤講師作業も前期が終わり
とりあえず一息ついて何故か想い出される
春先の民間ラジオトーク番組で詩人の
荒川洋治が早稲田の待遇の悪さをぼやき
十三年続けた非常勤を辞めたと言ったこと。

どのような場所から誰に向かって
何をどのように語れるかだつて、
サイバラ漫画『ぼくんち』全1巻本を買い
たった2頁見開きギャグでフツーを見直したよ。

今日も窓から吹き込む冷たい胸騒ぎが
老いの季節の階段を登ったり降りたり

どこかで三角関係の井戸を掘り当てている。
(03.07.15)

この夏空の塩梅は

どうもパツとしない北陸の梅雨明けだけど
約6万年ぶりに地球に大接近で南中する
火星を肉眼で見られるつてのがいいかな。

先週末土曜定番の「おめぐ」FM番組の
スイッチを入れたら東北地震のニュース、
宮城連続地震だなんて日に三度もやられちゃ
それこそ寝ても起きてもたままないよね。

春から2度目の歯の治療が片付いたヨメと
歩いて腰痛の治り具合を確かめるみたいに
久し振り近所の鮎盤に出かけて愉しめた。

酢物に揚物そしてめん類がいいというより
夏の料理こそ塩味が大事と思わされたのが
冷製パスタに一夜塩したトマトの美味しさ。

温かいホタテのムースをスプーンで刺したら
色鮮やかにオマルエビのソースがあふれ出し
口に含んだ塩加減とともに白ワインが引き立つ。

寿司屋の看板のほかにもう一枚掲げたら

なんて言ってみたくなるおもてなしが嬉しい
一時を過ぎしまだ早い南の空を見上げて帰った。
(03.07.29)

やらせじゃないよね

ほんとうに梅雨明けしたんだろうかなどと疑いながらももう8月入り。

イラク特措法を成立させた政府が自衛隊派遣先をめぐって米側とどんなやりとりをしているのか。

MLBのスイッチヒッターが1試合で両打席連続して満塁ホームランを放ったなんてニュースに巡り合うなんてことも。

対阪神戦16連敗していた横浜が後半戦最初のカードを勝ち越してどうやら7月の終わりにけじめ。

お昼の「笑っていいとも！」の日替わりゲストがテレフォンショッキングを締め括るコーナーで日替わり観覧女性百人から1人を引き出す質問を七月二十四日からなんと8連続で八月一日に繋いだ。

そうそう今朝早くトイレに起きたヨメが物音凄くぶつ倒れたりしたもんだから

ドキッとして助け起こした感触がまだ抜けない。
(03.08.01)

この夏の読み物に

先週までクーラーなんかいらなんて感じていたのが嘘のような8月第2週はじめ4ヶ月ぶりにママさんバドミントンへ。

低調な校下バドミントン活動とは大違い
顔馴染みだけじゃなく新しく若いママさんや
夏休みの娘や息子までがコートを賑わす。

体育館へのヨメの誘いがマッサージみたいに
効いたのか左肩や腰の痛みまでがほぐれ
ほど良い汗の絞り具合が楽しめる夏の再来。

こんな夏に響かせるCDの定番が無くとも
よくぞ出た滝村隆一著『国家論大綱』上下巻と
予約済み『吉本隆明全詩集』で十分愉しめそう。

亡くなった三浦つとむの著作も含めて
出張先その他の図書館の書庫で彼らの
著作のそろい具合が気になったことも。

その昔に配置替えになった工学部分館で
学生用図書に吉本隆明全著作集（勁草書房）が

全巻並ぶように手回ししたこともあったんだが。

そんなことをして「民青」にやられたりして

などと心配して分館事務室にやってきたりした

全共闘学生のもその後のことなども浮かんで消えて。

(03.08.05)

夏こそ快適に

南から雨台風10号が近づくなか
窓の外の暑さを突き抜け山肌くっきりの
北アルプス連峰の高さが静かなシルエット。

夏のBGMみたいな第85回全国高校野球の
テレビ中継画面に割り込む東北地震ニュースに
朝からキーボードを叩いていた手も一休み。

ひと足遅かった暑さに慣れないうちに
この夏が過ぎてしまいきろそうなのに
なんだか海や山が遠のき同窓会も中止に。

手軽な運動で思いつきり夏の夜を遊べば
近づいた雷鳴とともに体育館が闇に落ち
明るくなる前の点灯までの待ち時間に沈む。

歳ほどにいったん休んでも身体が冷めず
ウォーミングアップも楽な夏の運動は
息切れしないようどう持ちこたえるかだね。

歳を重ねるだけ心身の維持というか
メンテナンスに暇を費やすようになるから

やり過ぎいけないよう休み休み繰り返すこと。

忘れちゃならないのが終わった後の

疲労感でべったり流され休まないよう

日頃も手足を動かし頭を使って疲労物質を

燃やし続ける春夏秋冬を過ごす暮らし方。

(03.08.08)

読書の合間に掲示板

晴れ間の墓参りや雨の外出をしたり
孫二人の相手の合間合間に本を手
に晴耕雨読はるこむりよみみたいなお盆を過ごした。

上下各700ページを超える滝村新刊本と
1811ページ重さ2Kgを超える吉本全詩集の
目次を眺めあちこち読み進める涼しい終戦記念日。

十冊ぐらいの滝村本はほとんど手元にあるから
ここにきて新しく読むのはどうかだっただけ
買ってよかった面白さに2チャンネルの板まで。

本を読むのもいいけどタイムリーな掲示板で
その本のスレッドが読めたりするってのが
一人っきりの作業に風穴を開けられる感じ。

しよせん生きてく上で読んだり聴いたりなんて
どうでもいいことの代表格みたいな無為が捨てがたく
いつの間にか生活の一部みたいになってしまつて。

といつてもその人の全著作なり全作品を
すべて読み聴きしたなんて数えるほど

5本の指にも満たないからたいしたことないよ。

目立たない在野の優れた大家もそうだけど

大学を定年退職したその道に秀でた人を含め

各界の話を寺子屋みたいに関かせて欲しいな。

(03.08.19)

まるで忍者みたいに

バドミントンで顔見知りの子らの中にも

国立競技場（陸上の全国小学生交流大会）で走ったり
火星大接近に備えて立山に登ったのがいたりして
身近な話題にも事欠かなかった夏休みももう終わり。

夏バテじゃなく夏風邪気味のまま汗を絞って

体育館から帰った8/27の晩は南の空が曇っていたので
NASAハッブル宇宙望遠鏡で撮った火星を眺めたよ。

でも、地球に約6万年ぶりの大接近と言われたってね
おかげで寝不足気味なパリ世界陸上のTV中継だけど
まるで水面をヒタヒタと滑るような末続選手の走り！
江戸時代の庶民は走ることができなかったというのが
どうやってここまで走れるようになったのだろうね。

スポーツや格闘技その他なんであれ世界を舞台に

本番を競ってあんなふうに力を出せるなんてびっくり、

いまだに自主も主体もなく思惑だけでがんじがらめになって
どうしようもないほどへっぴり腰におさまりかえるしかない
飽きるほど見慣れた風景をあっさり突き破ってしまうなんて。

一人ひとりがそれぞれ力を蓄え結果を発揮できる
未知への接近を見かけたよう
で決勝が楽しみだね。
(03.08.29)

近く遠く夏の終わりの眺めから

パツとしない空模様の先週末の日中は
スポ少バドミントンの子どもたちの
久し振りの練習や地域の大会につき合い
夜は馬拉ソン中継画面に写り込むパリの街並みに
飽きず見とれたりしていたらもう9月。

そういえばバブルがはじける前だったかな
今じゃ跡形も無い同人誌仲間による話の接ぎ穂に
出かけるとしたらパリだろうなんてことも。

山手線の内側ぐらいの広さに展開する
景観を走り抜ける馬拉ソンランナーより
追いかけるカメラが切り取る背景がいい
なんて思わせた中継は他にあったろうか。

観光地は別として国内の馬拉ソン中継画面で
走路に沿い長時間映し出される街並みといえ
まるで判でも押したか金太郎飴じゃな
かろうか。

佐賀の飯所で昼酒を飲み車窓を眺めるうち
ここはどこ富山を走っているんじゃないの、
みたいな夏が行く先々で多かつたよう
でも

たまに異空間にきたような時の流れを感じ
ふと立ち止まったりした土地のことは忘れない。

冷夏にもかかわらず日焼けした子どもたちが
未熟な基本技と少ない練習量を補うように
考え考えゲームを作って勝ち上がった姿も。

(03.09.02)

食へと抜けた散歩の味

昨日今日と南下した大陸の高気圧が
開け放した2階の窓を爽やかに抜ける
作業部屋から散歩に誘い出された夕暮れ。

歩けば左肩のコリがわき腹に下り
ゆつくり赤とんぼと擦れ違ったり
立ち寄った本屋で買った雑誌がひんやり。

駐車を抜ける裏道から近道へ久し振り
大っきなサンマが出されたらどうしよう
なうんて二人が交わした気遣いも無駄に。

テレビで見た京の夏のグルメ番組など
他愛の無い食にまつわる話もつきず
時間外の銀行でしつかり入金を確認してから
近くの暖簾をくぐれば水槽に見事な魚影。

薫製に仕込んだサンマの切り身と男爵の
野菜サラダ風味にボルドーの辛口ワインで
散歩を助走に秋の食感に軟着陸できた。

一つひとつ切り身を松茸と一緒に焼いて

梅風味で食べる鱧が初めての美味しさ
それにしても骨がひと筋も口に触らないなんて。

これも、初物はつものかなと出された酢の物が

なんと艶やかでまったりした白子だったなんて
まるで夏、秋、冬と、旬しゅんの散歩をしたみたい。

(03.09.05)

本には足がある

「(田中審議官宅に)爆弾が仕掛けられたが、当たり前の話だと思う。いるかないか分からないミスターXとわたしは交渉したなんて、向こう(北朝鮮)の言いなりになっている」なんて言い草は

アメリカは、同時多発テロを呼び寄せて当たり前だと一部で言われたりしていた2年前の9・11を思い起こさせ、一人ひとりにとって当たり前の叡知や情操が今どこにあるのか確かめたくなる。

書架の整理整頓が日常業務の一つだった頃だが、便所や閲覧室の窓の外や学部校舎や学生寮のほか近隣の図書館など啞然とするようなところから見つかった所在不明本を定位置に戻した安堵感。

ふと読み返したり聴き返したり観返したりしたくなつたときにすぐに見つからないもどかしさなぜか置いた(と思った)ところに無いのだ。

とりあえず必要なものなど手元足下に山積みかな見切ったり見切られたりしたものから棚に詰め込み後は思い立ったときすぐ手にできればいいのだが。

お目当てと違った先の探し物が今になって
と言う事になりがちなのはなんでだろう？

区切りをつけしまったのが手元近くにあったり
いつの間にか床から棚そして物置と遠くなったり。

本それぞれへの切実感と置き場所が崩れたり

つながりが切れたりしながら読み手の居場所も

視力や聴力とともにいつの間にか疎かになりがち。

(03.09.12)

昔も今も、大人は凄い

日本海を北上した台風14号のフェーン現象なのか

3連休初日の土曜の猛暑も喉元を過ぎたようだが

インターネット中継で聴いた斯界の長老たちの語り口が見聞きしたことのない夜と朝の境界でふと目覚め

まだ覚えのない胎児のように丸めた身体に響いている。

日帰りはともかく老いた家族を残して出かけにくい

ところへ、ほぼ日、5周年記念講演会のストリーミングで

PCから流れるご老人それぞれの小さな映像とコトバが

老いの身体と言葉をめぐるようにわが家の書齋に届いたよ。

5人合わせて378歳でおおよそ430分にも及ぶライブが

じぶんの小ささといかに子どもに過ぎないかを際立たせ

どこまでも親より先に死んじやいけないことの臨場感に溢れ。

少しは涼しくなった翌日曜はマー君の幼稚園の運動会で

親・子・孫が目立たず交錯する風景に紛れ込む居心地へと

ゆったり合流できたりするとお弁当を囲むお昼も格別だね。

誰もが免れないそれぞれの本流からの外れ方や流され方に

気づかされたり思い知らされた事柄が紛れ込んできたり

いつの間にかとんでもない支流で流されたり泳いだりしていて。

3連休が終わる敬老の日の月曜夜になってやっとというか
ようやくついに阪神タイガースがリーグ優勝にこぎ着け
やるべきことをきちっとやった取りこぼしの少ない
今シーズンの戦いぶりがあったて18年ぶりの秋を手にした。
(03.09.16)

何か別なものに

500メートル四方に飲み屋がひしめきあっていた桜木町界隈そのほか馴染みの赤提灯からもすつかり足が遠のいてしまい仕事を辞めたあとも時おり飲みに寄ったりしていた駅前のお気に入り代わる店は見つからない。

妙齢のママにマティ二そのほかカクテルのひと時を愉しませてもらったりしていたが捨てがたい魅力を響かせカラオケ代わりみたいに置いてあつたジュークボックスはいまごろどうしている？

今は無い高岡の工学部分館へ通っていたころ帰りがけに高岡駅ビル2階のゲームコーナーで待っていた手垢のついたピンボールマシンはどうなつたんだろう？

万博やテーマパークへ出かけたりする前は年中行事みたいに家中そろつた温泉宿なんかでなんと両方のマシンを一晚で愉しめたこともあつたりいつの間にかわが家の歴代のパソコンにはきまつてジュークボックスやピンボールのソフトが紛れ込んでる。

人それぞれトラブルに巻き込まれたり苦境に立たされどんなにもがき足掻いても抜け出しにくかったり

やがて自分も相手もまな板にのせる場が見つかればしめたもの。

たまたま出会った映画や小説なんかにはチラッとでも

ジュークボックスやピンボールマシンがさりげなく

見えたりしただけでその作品が気持ち良く収まるなんてね！

とかく過ぎ去ってしまったものにとって代わる

そんな何かが見つかったり見つからなかったり

いつの間にか既に別なところを歩きつつあったりして。

(03.09.19)

つい気になったこと

どうやら暑さ寒さも悲願までを地で行ったような
衣替えで続投をつづける第2次小泉連立改造内閣だが
さてこれからどんなりニューアルを実行？

阪神タイガース優勝の日に甲子園球場の外野深く
広島カープの朝山右翼手の頭を超えて転がっていった
記念となる赤星中堅手のさよならヒットは誰が拾ったか。

日曜の夕空を跨いだ二重の虹を2階の窓越しに
3才半のマー君に見せたら窓を捨てて、と言
開けた窓の外の網戸に、それも捨てて、だなんて。

これ以上ないくらい晴れ上がった昨日の朝から夕まで
台風15号の置き土産でもないだろうに風が吹き荒れ
ボロボロに千切れそうなクモの巣にしがみついた庭の主を、

双眼鏡で観察したりするにわかインドア派になって
来月からの後期授業教材の仕上げを急いでみたら
大学図書館の現場で叩き上げただけの素人っぽさが。

ずいぶんご無沙汰している実家の叔父さんから
どっさり野菜や新米が届くような秋がめぐって

夜は毛布か布団か昼は長そでか半そでどちらがいいか。
(03.09.23)

いつから刻んでどこへ

いつも決まって6時ちよつと前に目覚めやおら手を伸ばし枕元のラテカセ（テレビとラジオとカセットが視聴できる骨董品）のスイッチ・オン。

毎朝のお出かけから遠ざかって久しいのに身体にしみ込んだサラリーマン時計だけがいつまでも取り残されくすぶっているようだ。

ひと働きして朝シャワーに朝いちビールだなんてもはや思いもよらない9月の終わりの窓を開ければほのかな挨拶みたいにキンモクセイの薫りが漂う。

シーズン途中に4人も監督をすげ替える茶番で濁ったプロ野球なんかほつといて仲間と一緒に汗して下手なりにスポーツをやったほうが酒も食事も美味しい。

食欲より読書の秋だなんて馬鹿な中毒もありそうだけど遠く離れて見えてきた十勝沖地震の災害状況などからその昔近くを流れる常願寺川の氾濫による9千人の被災まで。

遠く揺れた福井の大地震が幼い記憶に刻まれた6・28から今朝も夢うつつ耳にするニュースの繰り返しで日常に

立ち戻ったりしていただけるってのが何事かじゃないか。
(03.09.30)

日々をつなぐ調子の行方

夜来の雨もあがつてふと見れば山々はすっかり雪化粧
来年の日記や手帳やカレンダーが書店を飾り
ちよつとした日和に戸外に誘い出されそうな
ところへワールドシリーズ第5戦で4番松井だつて！

二十歳のカブレラが4番を打つてるマーリンズに
合わせたようにヤンキースもルーキーが4番を打つ
思いがけない展開になった相星の行方から目が離せない。

日本シリーズも甲子園に舞台が移つて2連敗した
ホークス相手に連夜のサヨナラ勝ちで盛り上がる
タイガースだけどあんな形でしか勝てないとなると？

日々の暮らしてもちよつとしたリズムやきつかけを
いつも引き寄せられるような体調が保たれているかどうか
歳とともにある日ある時思いがけない不調で転びそうに。

大の医者嫌い病院嫌いだった祖父は六十代を過ぎる頃から
なんだか十年に一度は寝込んだりするようなことを繰り返し
なんと九十代後半の引越しもめげずに大往生したんだつた。

あわやという場面でも最後にものを言うのはやっぱり

それまでに培われてきた無意識の働きなんだろうか
鍛えようも無い成り行き任せのように見えても運があるのか。

初のワールドシリーズ4番のバットは良く振れていたがノーヒット
海のこちらでは第5戦からのタイガース打線がホークスの斉藤右腕そして
杉内左腕から繰り出されるボールをどのように攻略できるか見物だね。
(03.10.24)

あり余るほど足りない

温かくて穏やかな三連休を締めくくったのが

ナビスコ杯の決勝を争った浦和对鹿島戦と

ワールドカップ女子バレー日本対韓国戦とはいかず

なんと福岡ダイエーホークスの主砲小久保選手が

無償で巨人へ移籍会見での中内オーナーの涙顔と

まるで他人事みたいな当の本人の仏頂面の並びだった。

連休初日に大阪府河内長野市で起きた家族殺傷事件が

男子学生と女子高生二人による十代カップルの暴走

みたいな言われ方で片づけられそうな構図そのものが

事件の詳細が分からないだけ余計に寒々としてしまう。

天然マグロを看板に売っていたのを食べた人から

これは蓄養マグロだと思われてからペコペコするなんて

ウナギだって喰えば天然と養殖の違いは誰だって分かるはず。

もし分らないとしてもそれはそれぞれの家庭の味だから

何といっても第六感も含めた人それぞれの氏より育ち

ほぼ衣食住で表現されるコミュニケーションの仕方は

とくに乳・胎児期そして思春期という二つの節目に

持ち合わせた男女身体生理能力で無茶・無駄・苦悩を含む

諸行をいかように引き受けたか通り抜けたかの再現じゃないのか。

おおよそ家庭の良き人が必ずしも良き職業人でなかったり
あるいはその逆であったり有りそうで掴み所のない、内心は何処に？
(03.11.04)

見忘れたような感觸の夕暮れに

今週に入って寒いというかやつと十一月らしい日和でいつも暖房をはいはじめの頃によみがえる感觸は
二人乗り^ニといつてもカーとかボートじゃなくて
いろんな人とのある時あるところでの自転車感觸。

ガキの頃から近所の遊び仲間とか肉親の誰かであつたり同性から異性へと両輪を回して渡つた橋の向こうでは
どうやらヨメや幼ない娘と乗り心地を確かめあつたり。

ふと巷で中・高生の二人乗りを見かけたりするみたいに
中上健次原作の『邪淫』を長谷川和彦が映画化した
「青春の殺人者」を見返したりしているような世相の噛み応え。

たまたま授業でコンピュータの歴史に及んだりすると
下手に説明するよりまだ見ていないドキュメンタリー映画
「Mauchly: The Computer and the Skateboard」を
学生たちと一緒に見れたらどんなにいいだろうと思つたり。

二度と二人乗りなんかできなくなつたお袋の姿から
物心もつきはじめたマー君を背負つたスキーの滑りまで
まだまだどこか新しい二人乗り感があるんじゃないか
一人走る夕暮れのアスファルト並木道をカラカラ落ち葉も舞い上がる。(03.11.14)

心身の停留所で

夕陽を浴びたりしたらとりあえず振り返るのが秋も深まる高屋敷界隈の散歩のだいご味などと言ってみたくなるような山々の眺めも久しぶり。

数年前カービングスキーに乗り換えたみたいに捻ったり力んだり無駄な溜めを無くすように立ったり座ったり振り向いたりできると腰が楽。

姿勢が固まらず崩れかかったような立ち居振る舞いまるで竹馬に乗ってるみたいに体軀が動かせると無意識の構えがバラバラに解きほぐされるようだ。

ただでさえ乏しい身体能力が衰えそうになってなおさらふ抜けたように肩や腰を持ちこたえて無い力を使いこなせるようにしなきゃならない。

疲れず腰が痛まない身体の捌き方で家事をこなしその上に運動が愉しめたりして元気になれるし意識せずに体幹が無造作に緩んだ心地の伸びやかさ。

ある型を極めそこから抜け出したジャム・バンドの変幻自在な演奏なんかをテーマ音楽のように聴いたり

物事をばらばらに解きほぐす文体を追い求めたり。
(03.11.18)

隠れんぼみたいな写真

振替休日は南極の日食中継で目が覚めたせい

か穏やかな午前の散歩の立山連峰の眺めの向こう側で

白い大地に黒い太陽が隠されているような感じ。

まあ視聴料を取るだけあってNHKも準備万端という

かすごい中継をやったというか視聴率が高くて金さえ儲ければ

よさげな民放番組の仕込み具合はどうなのかも気になったね。

高屋敷界限からあちこち自転車散策では眺められない

珍しい景観を観たくなったら手軽にインターネットで

訪れる日めくりのような写真サイトもいいけど人っ気が薄い。

先ごろトイレ休憩で立ち寄った郊外の書店で手にした眺めは

作家がペンをカメラに持ち替え東京の今の風景を集めたり

写真家が東京の狭い部屋ばかりを撮りまくったりした写真集。

どちらもどこを観ても人っ子一人写っていないのだけど

行き交う人や寝起きしている人の確かな視線が呼吸している

といっても心霊写真なんかじゃないオール・カラー文庫本。

どこかアリソン・クラウス+ユニオン・ステーションの

歌と演奏に向き合ううちにいつの間にか感極まってくる

そんな奥行きと広がりがに紛れ込むような写真のひと時。
(03.11.25)

引き分けられない光景

未年の師走の入りということでもないだろうけど
寒さを置き忘れたような十一月の徒花みたいな

アイドルの証券化やS社の扶養&住宅手当取り止め。

諸手当に縁が無くなってもアイドルは買えるか？

みんなの顔がある方向しか向かないような季節風が
強くなるほどにそれぞれの慰安も戦いも厳しいものに。

アイドルは創られるんじゃなくて買われることに

そして給与体系から住まいや家族関係が消えたり

どうやら人買いにロボット化が年末の売りか！

すべてを優先席にしたらいっただどこに座ったり

立ったりすればいいのかなくってことはどうでも

見えない分からない目的地に向かってひた走るだけ。

イラクで銃撃された日本の外交官と現地の運転手が

車を走らせていたのはいったいどんな地域だったのか

政府が自衛隊を派遣する非戦闘地域ってのはどこに？

引き分けの導入が今年のJリーグを手に汗を握らせる
成り行きにしたようにプラスマイナスゼロになるような

目先だけの負け方や勝ち方が見え隠れする光景が居心地。
(03.12.02)

赤い三角形

足場が撤去されすつきり窓際の眺め

それにしても北アルプスは薄化粧のまま

この様子じゃ立山山麓の年内の初滑りは無理だね。

ミーちゃんが元気に満一歳を迎えた昨晩は

珠洲の実家からの宅配便を開け娘婿が腕をふるい

赤く熱い茹であがりに刺し身や甲羅焼きまで旬のカニ。

夫婦仲というか親戚筋を含め大切なのは

とにかく男女とも健康であつてこそ長続き

できるような金がないとどうにもならない

絆を持ちこたえる似た者気質に違いない。

縁あつて二人を結びつけた赤い糸の真ん中が

結婚を重しに垂れ下がって三角形になる家庭という

生活の安全ピンは健康とお金と思いやりの三点で留まりそう。

子どもや孫がいろんな扉をたたいたり

赤い三角形が切り取っている今日の風景はどれも

いくつになっても忘れない好奇心が窓を開けたり

いつでも赤い糸の組み合わせの数だけ違っていそう。

(03.12.05)

オトナ語からインコ詩人までの散歩

古びかけた増築部分の手直し作業が終わった

とたんに天候も冬場モードに切り替わった

というかこれで北陸の十二月がやってきたかな。

業界用語に縁が薄かった図書館の片隅にいても

やりとりのあつたシステム業界の人との関わりで

染まりそうになつた『オトナ語の謎』を読んだり。

中学から高校にかけてどんな見方をしてたんだろう？

今月が生誕百年ということでテレビの特番で観る

小津映画はまるで金太郎飴が溶けるような味がする。

CDやDVDで自分なりの好みを聴き続けているが

映画となるとひそかに好きな作品を探したり

そんな観方をしなくなつてほとんどTV番組まかせ。

イラクから戻された外交官2名の合同葬の報道で

なにやら用意された言葉に感極まつたみたいに絶句して

どこまでも自分の言葉を見失っている。要人のうそ寒さ。

屋根も外装もびかびかになった作業部屋の

片付けが中途半端なままの書架をながめたら

おりおり手にした詩集が孤立したみたいに残っていて。

近所にペットショップができたりして気になってたもんだから
晴れ間にマー君との散歩で立ち寄ったインコがグレイゾーンだなんて
梅雨時に印象深かったインコ・アイドル詩人の新刊を買ったりした。
(03.12.09)

出す出さない、じゃないだろう

それとなく断片的にかいま見させられる報道番組出演者が
イラク戦後復興なんていつてるけど敗戦時の日本人とは違って
まるで示し合わせたように、テロリストと呼ばわりされながらも
ゲリラみたいなイラク人によるアメリカ軍への抵抗が続いてるのに
無造作に自衛隊を派遣するのはアメリカ軍の支援になるんじゃないか。

その理由の一つに国際協調だとかなんとか言われてみたって
現実にイラクに派兵している国の頭数にしたって国連加盟国の
2割にも満たないんだから派遣しないほうがより国際的だろうに。

当初はイラクの大量破壊兵器の摘発からその脅威の解除を掲げ
それが怪しくなったらイラクの民主化を大義名分にしてみたり
今こそアメリカの軍事進攻の取り止めがテロへの有効な対処じゃないのか。

イラク住民のアメリカ軍への抵抗は誰が見たってレジスタンスだろう
それを本当にやめさせたいのなら日本の自衛隊の出る幕は無いというか
アメリカ国民がブッシュ政権のイラク侵攻にどう対処するかにかかっている。

イラク戦争がいつどこでどのように終結したというにしる
イラクの復興を担うべきはイラク国民であって日本の自衛隊じゃない
派遣される隊員（とその家族）にどのような大義名分を与えうるか
そろそろ小泉（政権）の命運が左右される年の暮れになったようだ。（03.12.12）

身体を体感する

つかの間の日差しを浴びながら裏の雪囲いを済ませたりいつもの庭師が残っていた庭木の雪吊をやってくれたら待ってみたいにうつすらだが初雪が積もったじゃないか。

昨夕近所の公園で小二女兒がナイフで襲われ

今夕に小学校の体育館で緊急集会があるらしく

朝一の電話が鳴って今夜の定例練習は取り止めに。

いきなり背後から襲われとつきに右に逃げたのか
左耳に数センチの切り傷を負ったということだが
遊びながらも身体の捌き方ができるように育たないとね。

やり慣れた雪囲いに取り掛かるといつの間にか

決まったように右から左へと作業を進めてしまい

図書館の書架の本や雑誌が並ぶ左から右へと

動きながら配架点検作業をあたりまえにやってたのに

時間外開館終了時に各階の見回りはいつも左回りだった。

どんなに習熟したように見えてもやっぱり

いざという時左へ逃げて倒れながら止まってみたり

なんとなく自転車やスキーの左回りと右回りが違うのは

その人の利き足や利き手以上に利き目がものを言うのか？

ときおり風邪をひいたりすると左右の鼻の通りが
抜けの善し悪しで交互に交代しているみたいなのに
利き目は右利きか左利きかで決まっているみたい。

左利きのマー君がつかまり立ち歩きた時はどうだったか
ようやく伝い歩きするようになった右利きミーちゃんの場合
後戻りすることなく丸テーブルを左回りにつかまり歩きするだけ。

いったい右投げ左打ちのラケット競技者がいるかどうか
利き目で動体視力を発揮するしたら右投げ左打ちこそ
左右どちらの投球も見極めやすいってなことにならないか。

(03.12.16)

走って跳んで投げて踊って

なぐんて孫バカ話の書き出しみたいんだけど

昨日(12/18)都内で発表されたソニーの

小型二足歩行ロボット「キュリオ」の動きにびっくり。

3分足らずの動画ニュース画面をデスクトップに

出しっぱなしにしてキーボード作業の合間に再生したり

どうやら腰に負担のかからないバランスの妙が見飽きない。

ボールを投げたりするところなんかを繰り返し見ると

昨シーズンのマウンドに立っていた桑田投手のピッチングや

再放送で見たばかりの甲野武道家の手裏剣打ちの姿が鮮やか。

倒れそうで倒れないとか転びそうで転ばない

そんな危うさ脆さそのものを力にして動きながら

安定感を生み出しているようなのがたまらない魅力だ。

いまにもつんのめったりそっくり返ったりしそうな

不安定感を溶かし込むような滑らかさが今だからこそ

できなきゃならない身体操法に見えるから不思議だね。

とかく身の回りの環境ばかりに気を取られがちだけど

第2の自然みたいな自分の身体そのものとどうやって

向き合ってきたかが老いに向かう体力や気力を左右しそう。
(03.12.19)

今年の味暦をしめくくる

やっぱり雪が積もるようになると体育館の寒さも違う

もう気分は冬休みの日曜の朝を愉しんでいたところへ

今年も欠員が出た地区バドミントン大会に呼び出されたり。

でもそのおかげで観戦に来たヨメに誘われたみたい

ちよつと生ビールでお昼でもと立ち寄った鮎盤の若旦那に

つい赤ワインを頼んでしまい昼飯に腕を振るってもらえた。

家庭料理に負けないというか勝る外食なんてさらに無い

なんて思うようになっていくけどありあわせの食材をかき集め

やっつけただけみたいな食事がことのほか美味くて忘れない。

幾つになっても祖母や祖父が食わせてくれた味わいが

不思議なくらい消えないというか思い出されたりするが

今じゃヨメや娘の料理の味わいが重なって嬉しくなるね。

たまたま引越してきた近所で出前をとったのが

縁になって鮎盤にも座るようになったんだろうが

大旦那そして若旦那の手腕を30年この方味わえるなんて。

それなりに食の遍歴なんてたかが知れているに違いないし

聴いた後から消えてしまう音楽みたいにはかなくはないが

考える手のキャッチボールみたいに料理の味わいは伝わる。
(03.12.23)

立ちションしたくなるような一日

あんまりペットという飼いやなかつたけど
鶏、鳩、メダカ、ザリガニ、雀、金魚などなど
猫なんかとくに死んじやった時がやりきれない。

ミシシッピアカミミガメぐらいかな生き別れは
通称ミドリガメがあんなに大きくなるなんて
2匹とも自分らより長生きしたら誰が面倒見る
なんてことでペットショップに引き取ってもらった。

性別もわからなかったカメの消息が気になったり
そして数日前に届いた会報の物故者の欄や人伝てに
職場などで見知った方々のおもいがけない死の訪れなど。

気がつけばキーボードでデータ打ち込みに明け暮れたり
思いがけず冬場の引きこもりモードの殻を打ち破るみたいに
縁側からサイクリング車を引きずり出す日和がまたとない。

ペットはもうごめんだし人付き合いもちよつと一服かな
冬のソナタの再放送などまともに見ちゃおれないが
パソコンで何かしながら画面を流しておくくらいがいい。

モグラの黒焼にマムシの粉や酒からイナゴの煎ったのや

ミミズやらなにやら得体のしれない数々を虚弱児の頃に
祖父さんに食わされたりした年の暮れを思い出したよ。
(03.12.26)

暖かなすべり出し

元旦は予報とは違って抜けるように晴れ上がり
車で来た娘を立山山麓あたりへ誘ってみたが
初詣でと初滑りのセット提案が無視されて残念。

市外の大型SCで男110cmサイズの福袋を探してから
市内に戻り運良く鳥居の近くで駐車スペースにめぐり合せ
小一時間あまり暖かい日差しの境内でのんびりと並んだり
これじゃスキー場に出かけた方がよっぽど空いているはず。

そこいらで携帯を玩んだり地べたに座り込んだりいちゃついたり
見慣れた若者風景が目に入らないのが不思議な時間帯だったかな。

あれこれ各地の初詣でのご利益を見比べたりすると
いろいろあるようでもそれぞれの土地柄がうかがえたり
生活感が集約されているようだがさて今年はどうな展開に？

稼ぎやら世間体やらその他諸々もどっかへ置き忘れたようで
その時々さまざまな年越しモードに流されるままというか
なんだかサラリーマンの頃とは違ってきた普段着のお正月の味わい。

あれこれ保たなきゃならない物事をどんどん脱ぎ捨て
どうしても放り出せない事柄からどれだけ距離を保てるか
なんてことも溶けかかるほろ酔い気分で一日を過ごしたり。
(04.01.02)

お正月モードから立ち上げ

孫らを引きつれ娘が帰って静けさが戻った昨夜は

なぜか大晦日に上手くいかなかったセカンドマシンの

ファームウェアのアップデートとOSのアップグレード。

窓系と果物系の切り替えなんてのもあつたけど

手帳やカレンダーを取っ換えるようにお正月休みの中に

パソコン環境の入れ替えをやったりするようになったよ。

暮らしの月や年の変わり目に験を担いだり願を掛けたり祈念する

ということが歳とともに積み重なるなんてことはどうでもよくなり

渾沌から明晰への構図なんてモノがいかにも眉唾に見えてしょうがない。

福箱を見切りカジユアルなワイン12本セットをオンラインショッピングし

朝昼晩のワイン付き食卓以外はテレビと添い寝見たいなお正月気分だからか

意識朦朧としていながら気分があちこち飛び回りいろんなアイデアに浮き沈む。

そう言えば普段だつて何となく寝付かれないような寝入り端とか

抜けにくい起き抜けの一步手前の縦横無尽な半睡半醒がすばらしく

後でバラバラに砕け散る前にハードディスクに保存したいと思つたことか。

誰にもある幼少時からの夢幻様感覚が忘れられないというか甦らせるみたいないろんな作品に出会ったりすることがあるから観たり聴いたり読んだりしたりせず心身ともにいずれの方向にもギアが入っていないニュートラルな状態に気づく。

ずいぶん前にあれこれ相手をしてバドミントンの打ち方を覚えかかっては次の週にはまた最初からのやりやり直しだけで終わったりした子供がいて自転車が壊れたとかで担いでその子が案内するままに訪ねた家庭環境が壊れてた。

習い覚えたり何者かになったりしたくなさそうなあの時あの子の姿勢がひよつとして家庭の事情への防御体制としての構えとして一大事だったから生きていく上でどうでもいいバドミントンの心身の捌き方に馴染む余裕もなかった。

できるできないから利口かバカかまですべて心身の基本状態の破れ目のひとつとりあえずそうでもしないとおかしな考えや物言いはかりが大手を振ったり悪く良くない方へ傾きがちな現実だからこそそれぞれが心身の有り様を際立たせる。

(04.01.06)

丸腰の行方

年明けに引き続き三連休も娘がやって来るもんだから

スキー日和もそつちのけでマー君の遊び相手をあれこれしたり

ミーちゃんに振り回されたり立ち食い蕎麦を喰うみたいに日が過ぎる。

あつちこつちで荒れ模様の成人式がぶり返したようだけど

公に苛立ったり茶化したりする場として定着したりしても

それもやがて飽きられて違う形のものに様変わりしていくな。

巷じゃ食卓を囲んで自衛隊のかわりに正式の高齢者をイラクへ

だなんてブッシュ政権の付き人たらんとして大真面目になれば

なるほど小泉内閣の対北朝鮮やイラク政策には冗談で応じるしかない。

もしテポドンが市内に飛んできたりしたら真っ先に逃げ出すのは

どんな奴らか明らかだし隣県に駐屯する陸・空自がかけつけ被災者や

庶民の暮らしを助けたりしないことも戦争を生きた世代にはミエミエなのに。

持つてしまった世界第3位の軍事力から環日本海の力関係を

どんなに有事立法として取りだしたりしたっていざという時には

そんなものただの紙切れにしかならないことが分かりきっているのに。

食うや食わずの田舎暮らしの子供の頃だったが
戦争帰りの大人たちの手柄話には飽き飽きしたけど
今じゃ戦争を知らない大人たちが派兵を自慢話にしている。
(04.01.13)

見た目の乗り換え

世の移り変わりかはたまた歳のせいなのかどうなのか
しめ飾りを外すみたいなのに正月気分もあつという間だが
そんなもん飾らん家もどんどん増えてきているようだ。

曙が3億円でボブ・サップが800万だったとかいわれる
民放の格闘技番組とNHK紅白とをザッピングしたように
ハレとケの切り替えもどんどん早回っているのだろうか。

とある昼休みに小汚い作業姿で郵便局へ行ったら門前払い
新婚旅行で懐に三十万あったのに着たきり雀の成りだったせい
か銀座の料亭であんたらの来るところじゃないと言われたことも。

一身二世を生きるなんて夢のまた夢だがある日ある時に限って
とんでもない風体にもられたもんだなんてことも多々起きるが
最近も某日某所で「ベンツにお乗りで」だなんていわれ吹き出しそうに。

古くはジャニス・ジョプリンが歌い上げた“MERCEDES BENZ”(邦題「ベンツが欲しい」)
新しいところでは消防車もベンツみたいなの北の將軍様の超マニアぶり
ぐらいしか知らない僕が乗るものといえどもつばらバスにタクシーだけだ。

いろんな輩に見間違えられたりしてきたことは
それ以上に自分も数限りない見間違えをやってきているはず
どこまでも額面以下で誰にも評価されない事だったら手を染めてもいいかな。
(04.01.16)

そのうちやり直せるうちに

大寒めがけた今シーズン三度目の寒波来襲が

昨日の後期最後の授業担当日にかぶつたりして

市内の西から東へ夕方の方のバスで帰るのに3時間。

それにしても市西部で南北に横たわる呉羽丘陵を

境にしてあんなにも降雪&凍結状態が違うなんて

無職になって味わう通勤カンヅメ状態が妙だった。

うまく座れたバス内で「まだ呉羽山を越えてない」と

自宅に連絡を入れたり終わった授業の資料を読み返したり

まるでサラリーマンに戻ったみたいに時間を潰すしかなくて。

図書館の窓口から眺めた医薬大や富大の学生とは

また違う富短の学生風景から学ばせてもらったのは

歩む道や居場所を問わずいつでもやり直せたら生きる力が。

己か異性か仲間相手かこの三つのどれかを相手にしか

失敗する場所がないわけだけど年を食うほどにやり直す中が狭まり

話題の退職&年金離婚だなんて実人生の出洩らしの絵柄みたい。

冷えて家に帰り着けば活きのいい魚介と熱燗で心身が温もったり
いい感じで雪に引きこもった昼にはアンコウ鍋と赤ワインで時が流れ
どんな所作事をやり通すにしても〈型〉が行為と持続の要と思ひ知る。
(04.01.23)

除雪や圧雪さまざま

1週間前の雪による渋滞が嘘みたいな木曜（1/29）に後期最後の授業に出かけたら車道の除雪で歩道が埋まってバス停からキャンパスまでの行き来にも車道を歩くしかない。

集団下校時の娘が車道の除雪で堆くなった路肩から滑り落ちたまたまちようど通りかかった市のゴミ収集車に足を轢かれ職場から病院へタクシーで駆けつけたなんてこともあった。

市の担当者に電話してもあまりにもいいかげんだったからじゃ町内の市会議員に相談するといったらやつと善処しますということ通学路が道幅いっぱい除雪されたことがあった。

そのうち事故現場に歩道が設けられたりしたがいずこも同じ郊外の歩道は車道の除雪の雪捨て場みたいで散歩もままならない。

久しぶりの除雪作業で掌に血豆ができストックが握りにくかったが閑古鳥が鳴いて久しい立山山麓スキー場のゲレンデ状態が隣り合わせの雷鳥バレーと極楽坂では滑り心地が微妙に違う。

小・中学生のスキー実習で賑わっていた昨日（1/30）はとくによく整備された雷鳥バレーのゲレンデをより多く滑ってばかり聞くとところによれば使っている圧雪車の善し悪しに左右されているね。（04.01.31）

小さな声で

雪も溶けゆく雨上がりの節分だけどわが家で豆まきをしなくなった
十数年前のことだったがカンボジアへPKOがらみで自衛隊が初出勤し
そして今日の午後には陸上自衛隊の本体が政府専用機でイラクへ向かう。

不況は内、自衛隊は外、みたいな呪文をばらまく小泉純一郎首相が
ここへきて宮崎県の高校3年生から武力に頼らないイラク復興支援の
署名活動を寄せられたそうだがどんな説明するか聞き耳を立てたら
請願書を読んで答えずに「学校の先生がちゃんと教えていない」だなんて。

小泉首相は息子に「親父のやっていることはおかしいじゃないか」と
詰め寄られたりしても「学校教育がなっていない」とかわしてみせるのかな
国民の同意を取りつけずなし崩しにイラクへ自衛隊を派遣したことの重大さも。

こんなことで国内の都市や地方の住民がいつも死に晒されるような
情けない成り行きには誰だって真っ先に反対するより手だてがない
あまりにも無為無策なままブッシュ政権に骨抜きの日本国政府のやり方にも。

請願した高校生を相手に「学校教育」を云々するのが精いっぱい
なんとも無残でみすぼらしい主をいただいた日本国はどこまで
世界に物笑いの種をばらまき続ければ気が済むというのだろうか。

とりあえず問われたことにきちんと答えてみせなきゃ物事は
ちつとも前に進まないのにそんなあたりまえな受け身の姿勢も
持ち合わせないで難しくなる一方の内外の局面にどう対応できるのか。
(04.02.03)

成績や運動の出来なんて

先週末に早々とやってきた。春一番が
あちこちの除雪の痕跡を溶かし込んで
歩きにくかった歩道もすつきり散歩できる。

友引しか休めないパートタイマーを始めてたりして
娘の子連れ訪問がない日曜もスキーにいけるかな
だったけど荒れ模様でもともスキーどころじゃなかった。

おおよそのところ400キロメートルを超えるぐらいが
ヨメとの1シーズンの滑走距離の目安になっていたのに
だんだんじり貧になってきて今年はまだ200キロも滑っていないね。

昨年あたりから志賀高原スキー場など県外にも出かけてないが
たまたま二人して板やブーツを携えたりしている車内や町内で
声をかけられ立山山麓で滑ってきたと返すとなーんだという顔をされがち。

人それぞれ、古い一番みたいなことに出会ってから
運動や食生活をとやかくしはじめたってしょうがない
ヒトは胎内で意識を持ち始めた時すでに身体生理に、死と生が点在している!?

それぞれの生涯を持ちこたえる心というか意識のパターンも
決まってしまう。そう。思春期以後の暮らしの中での運動をバカにすると
あとになって老後の身体の捌き方にもツケがまわってくるんじゃないかな。
(04.02.17)

転がる日々に

今週半ばからどこかに冬を置き忘れたような毎日で

雪もすっかり溶けた屋根の傾きや見かける車も

どこか薄汚いのはいつの間にか黄砂が降つたに違いない。

寝起きにうつかり段ボールのゴミ出しで腰を痛めそうになったり

日曜日には戦力外だが員数合わせで出るバドミントン団体戦が控えていたり

今週はゲレンデに通わず平成十六年度も続けなきやならない司書授業の準備等々。

図書館業務で覆われたサラリーマン・トンネルから抜け落ちてしまい

いつの間にかアレコレ余禄みたいな頼まれ事をこなさなきやならないなんて

ヒトそれぞれ上がりのこない双六のサイコロを振りつづけるしかないのかな

暇つぶしによしもとばななの新作『失恋』短編集だけじゃなく

雑誌で十代の手になる芥川賞受賞2作品を読んでみたら

二進も三進も行かないところで息づく男女の一瞬のつながりが切ない！

どこか〈法〉みたいになった『家庭内暴力』が家庭から学校へ

そして巷へと触手を伸ばすように物語られるようになってきて

それも男じゃなく若い女の言葉で創られた作品の続きが読みたいね。

群れないでそれぞれわけあうみたいに気心を通わせられず
かといって皮膚に傷をつけたり背中を蹴つ飛ばしたりしても
餡が見えない食えない葬式饅頭みたいな心がころころ転がっているようだ。
(04.02.20)

息を継げた大谷さんの面影に

日々読みたいメールが、ウイルスメールを含む迷惑メール受信の増加にかき消されそうで、迷惑メールフィルタを教育から設定モードに変えたが学習能力イマイチのメール・ソフトの取りこぼしにこれから気をつけないと。

過日も自動振り分けされた迷惑メールボックスの一挙ポイ捨てを踏みとどまったみたいに見出しだけをザッと流し読んでホントよかった！未知の訪問者から届けられた「大谷さんのこと」を読まずに失わなくて。

どのようなきつかけでかこのWebサイトのとある日付の雑書きを読まれたうえお勤めの短大開学時に大谷さんの助力もあつて首尾よく図書館の開館に至った想いを鮮やかな筆力で書き送っていただけだ。

あちこち渡り歩いても図書館の増改築や新築開館の現場に立ち会えるなんてことはめったにあることじゃないからいろんな事例に関わったり場数を踏んだ知恵袋が心強い。

ときには日常の図書館業務で起きた仕事の解決を出入りの業者に次年度の契約を餌に丸投げしたりするのがあたりまえみたいな見慣れた風景を忘れさせてくれる図書館立ち上げの「掌編」が旅路に。

大谷さんとの「途切れたままの別れ」で手が届かない空白を充たして溢れる日々をもたらしてもらったのに応えられる

何ものも持ち合わせていないがこの上ない「捧げ物」の手触り
金沢で一緒にぶらぶらした兼六園の桜ももうすぐ咲くだろう。
(04.03.26)

節目の渡り鳥に

花見日和の弥生から鶯の初音で卯月の幕開けへ
ひとりふらふらつと未知の姿勢で入り込むように
新しい足場からどんな俯瞰視線で浮遊が愉しめるか。

気になった映画「WATARIDORI」をテレビで観たら
映像と音楽とナレーションのアンバランスな作り込み
次から次へ映し出される渡り鳥がただひたすら飛び続け。

気がつけば出どころか肝心の行き先もわからない
年度替りの通信をはじめるキーワードを何にしようか
いまだに初恋の名前しか浮かばないようになっていたらく。

一応の準備を済ませた後の忘れ物が思い出せないように
とりあえずというよりとにかく抜け出してしまったら
勤めあげた年代物のコルク栓が抜けラベルも剥がれた。

頼まれ仕事などはなんとか携帯PCに詰め込んだら
しっかり作り込んでいけるようにガードをしたり
ときには智慧を働かせ不意の飛沫をしのげないと。

夢で憧れてもどうにもこうにも翔べないようでは
なんだか何処かへ落ちたり落ちゆく快感みたいな
しっかりしたあてどなさで何処までも続く視界の向こうへ。
(04.04.02)

春の草むらから

雉の鳴き声と羽音の目覚ましがめぐってきた

朝間野球TV観戦で見とどけたかったのが初打席の
松井稼頭央メジャーリーガーの意思表示だった。

スプリング・キャンプでは草むらにでも隠れていたのか
渡米3年目の田口外野手ほどにも目立たない数字だったが
まったく気にしていない姿を「情熱大陸」で見せていて。

番組の終わりで、初打席の初球は絶対（バットを）振りますと
野球ひとすじ少年の熱い言葉でしめくくっていたとおりの
開幕戦ではその一振りで初球を外野スタンドに打ち返した。

うっかり朝ご飯が炊けてなかったりしたもんだから
思いがけずヨメが買ってきたカツサンドとビールの味わいは
プレイボールホームランを届けてくれたたうまさだったな。

試合中の投手や打者の好不調はとも見分けにくいようでも
球を投げたり打ったりする瞬間の、ひっかかり、具合を接点に
緩急を生かしてコースに投げそして打ち返すやりとりの内容でわかる。

春が際立つ山肌に雪面を、とらえて、滑る名残雪の感触がまぶしく
打てば響く会話みたいにラケットで交わすラリーの手触りが爽やかに
身体を吹き抜けてゆくひとときがあったりする日々の訪れに。
(04.04.09)

「奇」はチョット気になる「記」

大型連休だからといって遠出が似合わないようで記憶に残っているのは持ち山の下草刈りに出かけたり山菜取りなんか縁がなくなつてからの手作り作業。

玩具からはじまつてラジオやアンプの自作と続いたがジグソーパズルやプラモデルに混じつてリナックスなどどれもこれも連休に集中してやったりすることもなくなつた。

ペーパークラフトとか切り絵なんかはドラマーみたいに手足で刻みだすリズム感で作つていけばいいようなんだが夢見たりイメージしたものを描き出すつてのはどんなからくり？サイクリング日和だった。みどりの日に出かけもしないでめくり続けていたこのほど本になつた大久保亜夜子『奇的』はひと呼吸で仕上げる手書きコピーを、亜夜つた。手作業の賜物か！ハコを被つた。ぼつ。ぼつ。をめぐるペン書きされたキャラが3ページで一話コマ割り。絵日記の線の一本一本が見えない糸のように作者がイメージを書き上げた指先から体内の細かな筋肉の動きに繋がつてる。

2001年に宇宙船の旅は無理でも船で世界一周でよければその気だったがやらず仕舞いのままになつて世界一周クルーズのデジカメ日記を覗いたり追っかけたりしながら船内暮らして身体内の動きを掴み取る手ごたえも気になる。

(04.04.30)

老・幼をつなぐメビウスの輪

空模様も崩れた連休後半のわが家は子どもの日
というより、孫と老人の日、みたいな過ごし方で
リクライニングで読書なんかしてられない。

15Kg ぽんこつなつたマー君にのしかかられたり
腹の上で眠られたりすると重苦しいくらいだが
身体を眠りに解体させるときの重さの分散そのままに
なんとか運動時の身体の捌き方に使えないものか。

無意識ならあたりまえみたいな身体内が崩れるまま
力まず構えず身体各部の重さの浮き沈みや倒れ込みを
意識的にいろんな運動目的に合成できないものか。

八十も歳の差があるのに四畳半でなんだかんだと
それなりはかなり長い間を過ごす老・幼そのままな
二人の様子から老人ホームと幼稚園の並立を勧める
詩人・批評家の意見もいけそうな気がしてきたよ。

片時も休まず喋り動きそして働きやがて身体の
不都合や痛みで動くのもままならなくなるまで
身体に埋め込まれた見えない結び目を感じたり
そつと解きほぐすようなことにどうやら気づいた。(04.05.07)

立ち枯れるまえに

庭の隅の一本が虫にやられて丸坊主になりそう
なところへお世話になっている庭師が薬剤散布に
絶妙なタイミングで退治してもらえてよかった。

ラジオからスガシカオの新曲「ヒミツ」が流れ
柔らかく濡れた緑に目を休めたりしながら
飛び交う鳥の影にハッとするような日の立ち上がり。

景気を引つ張るとかいわれる「新三種の神器」の
世帯普及率が3〜5割になったということだが
大型テレビやデジタルカメラやDVDの売れ行きをよそに
ここ十年近くコンドームの国内出荷数が4割も
減少したりラブホテル業界の売り上げも3割近く
落ち込んだりしているってのはどうなんだろう。

セックスレスなライフ・スタイルが定着してきたのか
それとも日本人の繁殖力自体が衰えつつあるのか
いずれにしろ景気うんぬんだけじゃすまないご時世だね。

回復が思わしくないと伝えられる皇太子妃の様子を
うかがわせる皇太子の「率直発言」だけじゃよくわからない
夫婦の成り立ちや先行きそのものが不分明な象徴みたい。(04.05.14)

遅すぎた宿題の仕上がり

ひと雨ごとに庭木が萌え雑草も伸び放題だが

そんな勢いに押されたみたいなきーボード作業で

ようやく遠い昔のゼミの卒業レポートを作り直した。

書き上げた時の解放感も遠くなった頃だったが

日本語版『賃労働と資本』にかかわる書誌的新事実を

知らせていただいた先生は関西の教壇に立つておられたはず。

どうやらウェブ版の書誌解題として公開にこぎつけ

恩師に知らせるべきかなとネットで調べてみたが

すでに定年退職され名誉教授欄に連絡先はなかった。

腐るほど時間はあつたはずなのに何も今さら

取り立てて言うほどのことでもないのだが

何事も流れとかタイミングを外しちゃいけない。

一昨日の「情熱大陸」での江連忠プロゴルファーじゃないが

見たところ「静」から「動」で打ってるようだが止まって見える

身体の中にはすでにさまざまな動きが用意されているのだ。

いつだって気づくのに遅すぎることはないだろうが
不用意に溜め込んだり無為に居着いてしまったり
しがちな不器用さからなかなか逃れられそうにない。
(04.05.18)

ようやく五月晴れに

今年が春がやって来るのがひときわ早かったのに
どうやら五月晴れが続かなかったようで用水が冷たいのか
おたまじゃくしやアメンボがやけに小さいじゃないか。

週末のニュースの流れは小泉首相の二度目の訪朝の成果云々になったが
それにしても前回から要した1年8ヶ月の間は一体なんだったんだらうね
拉致家族の父母をめぐる政の捌き方に現政権の実行力の典型を読み取るべきか。

日曜朝の自転車散策で県立近代美術館の「野見山暁治展」をのぞき
夫婦ともどもチョット暗い立ち上がりからの様変わりにとまどいを前にし
八十歳を過ぎて持ちこたえている作風にどうやら納得させられたようだ。

独特な考えや表現する力を養うだけじゃなく時代とともに持続するのも
そりゃ並大抵じゃないんだらうけど自己模倣の穴ぼこにはまらないで
見たり聴いたり読んだりする者を揺り動かす力がもたらす元気のよさ。

まだ海辺のサイクリングで一度も蜃気楼を見たことがないけど魚津に
日テレ「The 鉄腕 DASH-」の日本一周！ソーラーカーがやってきて
繰り出した船で見事に蜃気楼に写し出た父をその子が見るなんておバカ番組の真骨頂！

絵を見た帰りに買った新譜「上原ひろみ／ブレイン」と「山中千尋／マドリガル」の
2枚のピアノ・トリオ演奏を部屋いっぱい響かせたら一気に空気が五月晴れに広がり

身体にのめり込む閉塞感を描いた芥川賞受賞作家の作品を読んだ身体を包んでも余りそう
じつと泣くだけひたすら言いつのるだけじゃない女の姿がこれからもっと映えるといいな。
(04.05.25)

水鏡の底を抜く

高屋敷の5月はいつも雨だったという実感はないのだけど
いつのまにやらリスニングルームの平屋根に降った雨が溜まり
雨上がりの風や空を映しだす趣は浮かんだ水鏡の風情だった。

梅雨を控えて防水ペイントも塗り直してもらったばかりだし
離れの2階の窓から小屋根を渡って水を抜くことも先延ばし
不意に出現した水鏡はまるで屋根にはめ込んだディスプレイ。

昨日の雨降りに接骨院から帰って水が伝い落ちない鎖の雨樋を眺め
思わず揺すってみたら丸太棒みたいな勢いで雨水が抜け落ちてきて
いそいで2階にあがって見たが惜しむ間も跡形も無く消えてしまった。

春先からの黄砂がいつの間にか雨樋の鎖を留めた金具にまとわりつき
僅かな傾斜で溜まった雨水の落ち口を塞いでしまっていたのだろうけど
拍子抜けするくらいあっけなく緑の屋根が剥き出したらもう6月に衣替え。

富山地方気象台の観測史上で最多の5月の降水量だったそうだが
残雪をノミで削り落とすような勢いで山肌が露になってきたりして
日によってはひとときは山が大きく呼吸しているように見えたりもした。

抜け落ちた天水とともに屋根から消えてしまった水面が
張りめぐらすように湛えていた影もあたりの緑に吸い込まれ
遠く見えだした山肌に心細い線となってまだ雪が残っている。
(04.06.01)

振り返れば地球儀が

数年前に手にした退職金でヨメと世界一周クルージングでもとりあえず数ヶ月ながら家事を忘れてみるのも悪くなさそうな思いつきも9・11をめぐる世相でうやむやになってからかほとんどどこにも出かけないようなことになってしまっている。

週に一度のスポ少の子どもたちや司書課程の学生さん以外にここんとこ通院先で年配者に混じることがあるもんだから母子家庭育ちの自分がいつの間にか祖父^{おじい}というものになっっていることに気づかされるがその実はなんとも頼りない。

週に何回か近所の接骨院と歯医者へ通うのが定番になり

今週のような好天続きだと帰りはついあちこち散策しがち

新たに出現した高屋敷ヒルズ^{ヒルズ}からは風に乗ってやたら槌音が響き

立山連峰を背景に立ち並ぶ新築家屋の多さに比べて幹線道路に

出入りする狭く曲がりくねった道路が元のままじゃ渋滞になり事故も増えそう。

どうかすると終日机に向かっていたりすることになりがちだから

地図帳を開くより振り向いた高さに見合う地球儀が好きなのだ

さしあたって拡大鏡で眺めるのは南西諸島あたりということになる。

もう出不精それとも引きこもりなんてことはどうでもいいが

日頃から心身をあちこち移住させたり執着しないとやっていけない。(04.06.04)

ぬかるむ季節をくぐり抜け

半夏生もしつとり雨に濡れ

かすかに紫陽花が揺れ動いて

梅雨の肌触りに潤う庭の眺め。

霧雨の向こうへ消えていく影を追いかけるように

片岡義男『影の外に出る』の日付のある頁をめくれば
強くなった雨足が日本とアメリカの関係を洗いだす。

日本という国の〈戦後政治〉の立ち姿が

「総合的な見地から判断する」

「日本が主体的にきめていくこと」

「大局的な観点から」

「さまざまにある選択肢のなかから」

「慎重に見きわめていきたい」

「関係各国との話し合いのなかで」

「理解と協力を求めていくことに変わりはない」

「一日も早い解決をめざして」

「日本の役割はきちんと果たす」

「日本自身の判断としてやっていきたい」

こうした言葉が繰り返し首相に続く日本政府の面々により
いろんな状況や文脈で多用されている現実の中にあたりして。

先の見えないオフロードのハンドルの握り具合みたいに
行き着く先を見出すその捌き加減を誰がナビゲートできようか。
議論をつくそうにももはや責任の発生のしようもないくらいで
問題の局面が各自の立場や都合の中で曖昧に薄められる袋小路ばかり
誰もが共有するこの居心地の悪さの由来を解き明かす手だては？
(04.06.25)

雷様も知らないよ

梅雨時の定番とはいえ抜き打ちでやって来る雷雨にパソコンやAV機器の電源を落として小一時間ばかりやりすごしたはずなのにデジタルチューナーが駄目そうに。

リセットしたりしていじってるうちに回復したようで

たまに早起きをして Euro2004 のテレビ観戦したかったのに
ヴィンテージ・カスクのスコッチを飲んだりしたもんだから

目覚めたときには中継が終ってしまっていて二度寝にはまった。

それにしても開幕戦のポルトガル代表（1-2）ギリシャ代表の再戦が
欧州選手権の頂点をきわめる試合になるなんて雷様でも予想できないね。

今週の授業に出かけた先でもチャイムが故障していたようだけど

聞けば雷の被害で図書館その他の電気が止まって大変なことに
休講にならなくてラッキーだったが鳴るべきものがないと入り方が難しい。

その昔おふくろを自転車の後に乗つけて映画を見にいった帰り

出し抜けの稲光と雷鳴にひっくり返ったことがあったけど
ケガもしなかったがどんな映画を見たのかちつとも覚えていない。

山歩きをしていた頃に穂高で物凄い雷雨に見舞われた時は

同行者と命からがら涸沢を逃げ下ったことがあったりしたが
あとでその人が亡くなったのは車に当てられたのに雷にやられたような気がした。
(04.07.02)

戸惑うこだわり

据膳喰うみたいにさんざん使い込みながら
どうにも好きになれず馴染めないだなんて
身勝手もほどほどにしないとバチが当たるかな。

電話もエアコンもなかった田舎屋住まいに
戻る気はないが簾戸に入れ替えた夏場の
風の通り道に猫や青大将まで涼んでいたよ。

小暑前からの真夏日の大連投を受けて立つ
季節の身体作りなんて思ってもいなかったが
身の置き方を自然のリズムに合わせ心身を整えないと。

仕事を辞めた時に捨てなかった携帯もそうだが
家にかかってくる電話にはほとんど出なくなつて
購読2紙を止めたみたいなことになるのだろうか。

好き嫌いは少なく食いつないできても駄目なもの
どこまでも駄目としかいいようがないこともあつて
なぜ嫌なんだろうと自問する気にもなれないくらい。

気持ちが強張らせたり身体を固まらせるのはよくない
夏風邪で身体を柔らかくして弾力を再生するように
グッタリする通過儀礼みたいな心身の不調感にも養われる。
(04.07.09)

あやうい味

新潟・福島集中豪雨による犠牲者が70〜80歳代のお年寄りばかりでとつさに逃げられないくらい

濁流が一気に押し寄せどうしようもなかったのだろうか。

死者12人のうち3人は1人暮らしで3人は夫婦2人で普段から高齢者の地域連絡がうまくいっていなかったりすると緊急時には忘れられてしまったりなんてことに。

短大前でバスを降り回数不足に終わった前期授業の行き帰りにいつも前庭に草一本生やしていない構の家を通り過ぎるけど草むしりも怠りがちなわが家のお隣さんでなくてよかった。

ニューヨークの矢野颯子の歌とピアノのある暮らしぶりがあります女の魅力となってBSHi(7/15夜)の特番に溢れてて久しく取り出していないLPやCDからの変貌ぶりもうかがえた。

カツオ節をふりかけて醤油味で食べるとうまいよ。だなんて鮭盤の向こうの若旦那が云ったとおりで娘婿からもらったチーズセットにあったモツァレラを最高の味で食べられた。

季節を問わずとりわけ夏にうまいのが冷ややっこなんだが
時としてだらしない豆腐味よりよっぽどうまい冷ややっこもどきに
夏の泡とか白ワインのよさにも気づかされたりしている。
(04.07.16)

事の左右はどちらに

連休の中日に子連れ娘がやって来ると気分はもう夏休み
みたいな感じで幼い兄妹の相手をしてしまうがとりわけ
歩きはじめたばかりのミーちゃんのしぐさに見とれてしまう。

受け身どころか転びかたもしらないくらいに緩んだまま
だからだろうか妙な倒れかたをしてもまるで何もなかった
みたいに立ち上がってみえない何かに操られているみたい。

あの柔らかさを体内に残したままに様々な身体操法を
身につけられればいいことはないのだろうが人それぞれに
しかるべき型にはまらないことには大人になれないようだ。

見開きページの絵と文字をどちらにするかなんて迷うことない
せつかく見たこと聞いたことなども、右から左に忘れてしまいがち
だからだろうか物事は、左から右に眺めたほうが座りがいい。

あやして一緒に風呂に入れば左手で抱いているし
指さす外をせがまれ散歩に出れば右手で抱いていた
なんてことは娘が幼かった頃とちつとも変わっていない。

一瞬の気配をつかむ四感をたぎらせたビートたけしの座頭市が
ほんとうは片目だけでも見えていたのではなかろうかなんて
勘ぐらせるような出来栄えだったがだとしたらそれは左右どちらか？
(04.07.20)

夏に忘れぬ立ち姿

図書館のカウンター越しにいろんな読み方がかいま見えたように人それぞれ生き方もてんでんばらばら
どうでもいい本の読み方なんて千差万別でいいのだが。

ときとしてもものを考え書いて生きる姿のあてどなさとしつかりした生活者の風貌を合わせ持った読者とも
いうほかないようなひそかな佇まいが忘れられない。

適当に流しているわけでもなくそうかといって
肩に力が入りすぎることもない諸事への控えめな
対応ぶりが目立たず自然でひっそりした温かさが。

一九六十年代半ば過ぎの東京での暑かった司書講習の折だった
行動する物書きの頃の吉本隆明のすぐれた読者として語り口が
鮮やかだった吉田於菟彦さんは埼玉県立文書館長をお勤めのようにだ。

一九七十年代前半に紀伊国屋書店富山営業所に配属された
大谷之夫さんとの出会いは勤めていた富大図書館での仕事絡み
ほどなく詩人・批評家としての吉本隆明の寡黙な読み手の姿を見せ、

当時の僕が関わっていた同人誌『呪海』の第3〜4そして6〜7号に
確か「視点への試み」と題した連載を書いていたはずなのだが
どこかに紛れ込んでしまっていてまだに読み直せないもどかしさ。

この春に逝ってしまった大谷さんの喪主の奥様からこのほど
思いがけず懐かしいお便りをいただけたりしたもんだから
書いたり読んだりして織りなした遠い風景が際立ったりする。
(04.07.27)

カラスも行水……

午前中に出かけた歯医者の玄関先でカラスが涼を求め

融雪装置が飛散する打ち水に戯れていて近寄っても逃げず

北大植物園で襲われそうになった夏の黒装束とはずいぶん違う。

今年上半期のウイルス感染の70%が実は1人の仕業だったなんて

外国のウイルス対策ソフトウェアメーカーが報告していたようだけど

1人の人間がこんなにも多数の感染被害をもたらす可能性に驚くね。

無数に散らばったネットワークをつないだインターネットだからこそ

歯止めが効かず新たな感染被害が後を絶たないということなんだろうが

猛暑でバテ気味な人体こそプール熱などの感染症に気をつけなきゃいけない。

病院のある大学の図書館で働いていた頃は夏場の業務当直ともなると

高齢の入院患者の成仏が続いて夜も寝られないことも少なくなかったが

高屋敷に引越し白寿の祖父が亡くなったのも暑かった7月末だった。

ことのほか暑い季節を無事に高齢の家族が越えるのが気がかりな

今日この頃だがなんとアデノウイルス感染症で寝込んでしまつて

そのまま昏睡状態から覚めない娘を訪ねたヨメが見つけれ救急車を呼んだり、

引き続き保育時間外の幼い孫2人の世話を焼いたりするうち自宅療養で大丈夫というところまで回復した娘におぼあちゃんをあずけたりなんてもつてのほか週末から夫婦で予定していた外出時に起こらなくてよかったよ。

旅の小道具に買ったiPodを楽しむ機会も先送りという成り行きだがこの小っちゃなジュークボックスはなかなか使い勝手のいい優れ物で

CDだけじゃなく聴き込んだ数千枚のLPのお気に入りも取り込みたいくらい。
(04.07.30)

恋も動きも

誰しもかけがえのない生涯で心躍ることの一つというよりその最右翼に位置するのがどうしても恋愛だということになるとすればやはり多感な青・少年期が華ということに。

さまざまな身体の使い方というか身体操法を試みたり

ことさらに性が関与しなくても身体が気持良く感じる動きへの気づきは日常に終始した身体動作を踏み越えたところから。

娘やマー君が歩きはじめたときと同じようにミーちゃんも

その場でくるくる廻っていたかとおもうとテーブルの周りをぐるぐる運動会してみたり畳の上をあっちこっちへたり込むまで。

似た者同士みたいな骨格にまとった600もの筋肉のいくつかを動かす遊びがやがてすべての筋肉が連動する運動感の手ごたえにどこまで感応し続けられるかでその後の身体操作が模られそう。

とりわけ思春期にスポーツをやっておくことがその後の人生に

いかに大切か書いていたのが太宰治やシモーヌ・ヴェイユだったが
壮年を過ぎる頃から運動の真似事をし始めた僕にその真意が分からない。

仲人結婚が廃ってくるほどに恋愛を結婚に軟着陸させがたいようにとかくプレイやゲームにつきまとう勝ち負けに終始するあまりか運動との関わりがぎくしゃくしがちで生涯の伴りよとは成り難い。
(04.09.17)

あれこれ模様替えでも

昨日の夕方ヨメに引つ張られ散歩に出たら素晴らしい夕焼け雲で月が出るまで歩きたい気分のまま近所の寿司屋の暖簾をくぐったら冷たいのや温かい料理がいずれもワインや冷酒を引き立てる季節に。

つぼみ松茸と魚介との炭火焼きをモンゴルの塩やオイルでいただいたりすると何でもかんでも囲炉裏で焼いたりして明治生まれの祖父さんと喰ったりした田舎の食生活が匂ったり。

暮らしのパターンからアフター5が無くなると赤提灯など呑みケーションの場がまるで通過儀礼みたいに遠ざかってしまどこか幼かった頃からの食の根っこに触れるような懐かしい味がいい。

刈り込まれた庭木に張りめぐらされたクモの糸が艶やかに揺れ晴れ上がった空の向こうの山の稜線から秋の肌触りが漂いはじめそろそろ畳替えとまではいかなくとも障子だけでも張り替えないと。

いつの間にか部屋を違って散在するパソコンもケーブルや無線LANで家のどこにいてもインターネットを覗けるようにしてしまったりしたらどのパソコンからもデータの作成や編集そのほか同じ作業環境を保ちたくなる。

たまたまレンタルしていたファイルサーバも保存容量が倍増したことだし
自動的に双方向コピーできるツールでどのパソコンも作業デスクに模様替え
なんてことが簡単にできてしまうけど食生活の模様替えだけはできそうにない。
(04.10.01)

人心を操作するリモコンでもあるまいし

迷惑電話も遠のいたところへオレオレ詐欺電話があつたり

十月の声を聴いたとたんの肌寒さを忘れさせんばかりに熱い

大リーグのシーズン最多安打を達成したマリナーズ・イチロー選手の姿。

落合監督の野球姿勢が貫かれた中日ドラゴンズのセ・リーグ制覇や

パ・リーグのプレーオフ第1ステージの日ハム対西武の戦いぶりは

どっちを向いてもさえないニュースやおぞましい事件を忘れさせてくれる。

ビックリされるでしょうがと前置きし高井戸警察署を名乗って

お宅の息子、タダシが猥褻事件をやったなどと電話してきたのに

受話器をとったヨメは家には娘しかおりませんと撃退したようだった。

とにかくおふくろが電話に出るようなことがなくてよかったが

僕だったらとつきに相手の名前や肩書きそのほか確かめようとするだけじゃなく

上司の名前を尋ねたり責任者への連絡電話番号を聞き出そうとしたりするだろうか。

故障で完走をあきらめ退職金をもらった頃からあちこちどうしようもない

しつこい迷惑電話にいつそのこと番号を変えたらどうだろうと思つたことも

そのうちうさんくさい名簿のたぐいをリモコンみたいに操作する手口も下火に。

いまのところテレビの地上波のデジタル化への対応は考えてなくて
あれこれ工夫して透明プラスチックのレターケースにリモコンを収め
スライドしてボタンを押しだけで手持ちオーディオ機器を操ったりしている。
(04.10.05)

年を越す身のこなし

ミーちゃんともども二日ばかり子守することになった

マー君がどーして地震がおきてどーして揺れるのと連発し
なんとも答えられないくらい今年は最後まで災害が目立つ。

片方にせがまれたら両方とも高い高いしなきやならず
ようやく腰に負担がかからないやり方も身についたようで
前屈みの洗い物姿勢や階段の上り下りも同じくらいかな。

われ鍋にとじ蓋みたいな心身だったらどこまで持つか
ほっといたらわが身の無意識的な捌き具合のつけが
取り返しのつかないことにならないうちに手を打たないと。

車からだ脚力で漕いでいるようにしか見えないだろうが
自転車だって足腰だけじゃなく脇を絞り手でハンドルを
押せるようになると走るしスキーのストック捌きもそうだ。

捨て難い叔父甥の間柄みたいがいい具合に続きがちな
かかわり合いでどこまでも内へ外へと歩き続けるにしたって
何事かがやって来ないとできない受け身の姿勢しただいね。

叔父さんの野菜で焼き焼きをしたり甥のお菓子でお茶したり
チビちゃんたちが帰ってあっけないくらい静まりかえった
部屋の外を眺めたら真っ白に幕を下ろしはじめている大晦日。
(04.12.31)

夏に忘れぬ立ち姿

十字路で立ち話抄二〇〇三年一月～二〇〇四年十二月

発行 二〇一五年一月一五日

著者 吉田恵吉

編集・発行 〒939-8036 富山市

高屋敷731-6 吉田恵吉